

皇學館大学
ボランティアルーム

平成28年度 活動報告書



目 次

担当教員挨拶	1
代表あいさつ	2
1. コーディネート状況報告	
・平成 28 年度ボランティアコーディネート活動報告	5
2. ボランティアルーム企画・活動報告	
・HELLO ボランティア 活動報告	13
・サマースクール 活動報告	15
・ちょこっと福祉体験 活動報告	19
・「老人ホームで Let's 文化祭」活動報告	23
・倉田山清掃企画 活動報告	28
・熊本・鳥取地震救済募金 活動報告	32
・伊勢市ボランティアセンターフェスティバル 活動報告	35
・倉陵祭模擬店 活動報告	38
・他大学視察 ～愛知淑徳大学 CCC～ 活動報告	42
・季刊誌 活動報告	48
3. アンケート報告	
・平成 28 年度メール登録者対象アンケート報告	53
4. 資料	
・平成 28 年度 年間スケジュール	63
・平成 28 年度 ボランティア募集一覧	64
・平成 28 年度 ボランティアルーム学生スタッフ一覧	66

平成 28 年度をふりかえって

ボランティアルーム担当教員

叶 俊文（教育学部）

昨年度のふりかえりの中で、「平成 28 年からボランティアルームの第 2 のステージへ」というようなことを書いている。ボランティアルームは第 2 ステージに踏み込んだのであろうか、それともまだまだ足踏みしている状況なのであろうか。

第 2 ステージに突入するためには何が必要だったのであるか。第 1 は人である。その点では、今年度たくさんの 1 年生が加入してくれたことは大きかった。さまざまなカラーをもつ 1 年生が入ってくれたことは大きな財産になった。その財産が中心となって「老人ホーム くらたやま」に出向いての企画は楽しいものであった。もちろん、老人ホームという施設がどのようなもので、どのような方が利用しているのか、利用している方はどのような状態の方なのかなどの情報収集に欠けているところはみられたが、自分たちの積極性と進んでいこうというパワーで乗り切れたことは大きかったと思っている。終わってから彼らに突きつけたことは「この企画を続けられるのか」ということである。その答えを来年度に期待したいと考えている。

第 2 は上級生の指導力である。今年度目に見えることがあった。それは 4 年生が卒業すると、次は一人になるということであった。そのことを十分に理解している 4 年生であったことから、下級生、特に 1・2 年生への指導が大切なものになったと思っている。4 年生は役割分担がしっかりしていたというのかわからないが、持ち上げる人、サポートする人、厳しくあたる人というようになっていた気がする。それぞれがどうあるべきかと考えて動いてくれていたのだろうと思う。しかし、その根底に「ボランティアルームがあるべき姿」が統一されていたのだろうかと考えてしまう。第 2 ステージの土台となる「ボランティアルームのあり方」がどれだけ話し合われたのであろうか。それが下級生に伝わったのであろうか。4 年生が思っていたことが伝わっていれば、第 2 ステージはスタートできる。それが来年度の目安になると考えている。

4 年生の諸君。入学したころはたくさんのスタッフがいたような気がする。しかし、4 年まで頑張ってくれたのは 6 人ということになる。ありがたいことである。来年度は 4 年生 1 人体制となるが、何とか下級生が支えて進んでいくことになるだろう。見守っていてほしい。

最近の傾向をみていると、スタッフの人数に波が見られる。何とかして安定した人数を確保して、軌道に乗せていかなければとも考えているが、こればかりは学生の気質というものも関係してくる。ボランティアに興味や関心がある学生がたくさん入学して、ボランティアルームを支えてくれる学生がいることを期待している。

次のステージへ

皇學館大学ボランティアルーム学生スタッフ

教育学科 4年 内藤 悠

現代日本社会学科 4年 出口真太郎

コミュニケーション学科 3年 河口比加理

ボランティアルームは皇學館大学社会福祉学部（名張学舎）で発足し、伊勢学舎に引き継がれ現在も活動を続けている。しかし、昨年度はボランティアルームを社会福祉学部から受け継ぎ、伊勢学舎に根付かせてくれた先輩方が卒業した。先輩方の卒業により、今年度ボランティアルームは大きな節目を迎えた。

昨年度は社会福祉学部の DNA を直接受け継いだ先輩方が“原点にもどる”ことで、我々後輩に“ボランティアの良さを伝え、一人でも多くの仲間を増やす”という大切にすべきボランティアルームの原点を伝えてくれた。この原点とともに、これまで先輩方が受け継ぎさらに新しく築いてきたボランティアルームの歴史を決して止めてしまわず、次の代に伝えていかなければならない。そのような想いをもち新たな一年を迎えた。

しかし、ボランティアルームの歴史を次の代に伝えていくだけでは、いずれボランティアルームは組織として衰退していくだろう。そのような状態に陥らないようにするためにも、原点を大切にしながら新しいことへ挑戦することが大切であると考え。そこで、今年度は新たに“月一ボラ”という取り組みを始めた。これは月に一度ボランティアルームスタッフが参加するボランティアを掲示板などで公表することで、ボランティア参加への一歩が踏み出せない学生に手を差し伸べようという試みである。この試みではある程度の成果を得ることができ、今後も続けていく価値があると考え。

さらに今年度は一年生全員で“老人ホームで Let's 文化祭”という新しい企画に挑戦した。一年生だけで新企画を考えるということはここ数年のボランティアルームではなく、初めは手探り状態であったが、外部の施設や学内の部活・サークルと連携を取り、当日は施設の方にも喜んでいただけた。一年生はこの企画の実施により、自信が付き、責任感も芽生えた様子であった。一年生のスタッフがこの企画で得た自信や責任は、一年生自身のみならず、今後のボランティアルームの成長に繋がっていくことと期待している。

この一年は、偉大な先輩方が残してくれたボランティアルームの歴史を止めてはいけないという想いが一番大きかったが、止めないためには守りに入るのではなく攻めなければならないと考え、次のステージへ進むため新しいことに挑戦してきた。新しいステージに進んだボランティアルームが、これからさらに進化していくことを期待している。

最後になりましたが、ボランティアの依頼や受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様に教職員とともに心より感謝申し上げます。どうか、今後とも変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

1. コーディネート状況報告

平成 28 年度ボランティアコーディネート 活動報告

1. 目的

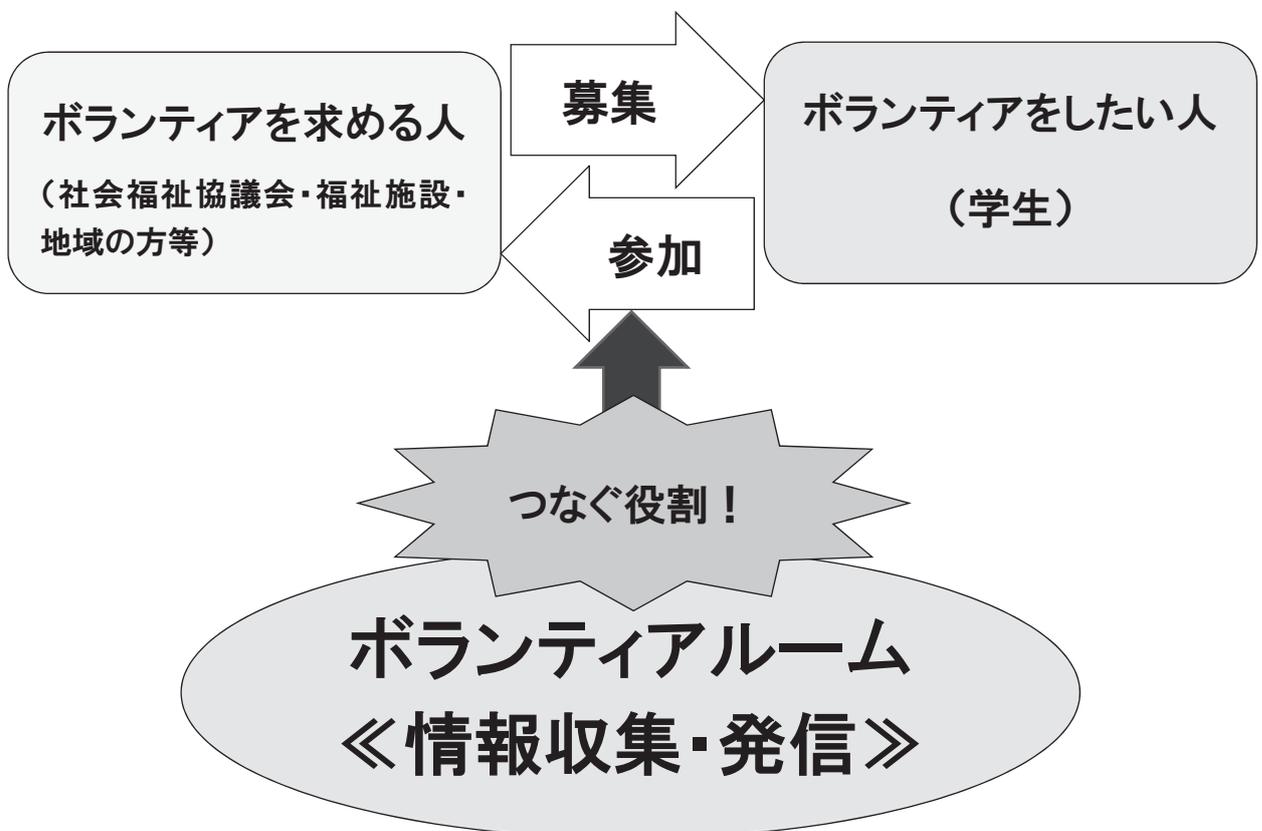
皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。そこで、ボランティアコーディネートについて今年度の活動を報告する。

2. 活動内容

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域から依頼されるボランティアを受け付け、学生にボランティア情報を提供し、地域と学生を繋ぐことである。

学生へのボランティア情報提供の方法は、2号館1階ボランティアルーム横と6号館1階の掲示板への掲示、メール登録者へのメール配信である。また Twitter を用いた情報発信に加え、今年度から月に一度学生スタッフがボランティアへ同行することで学生の不安を取り除くことを目的とした月別ボラを新しい情報発信の方法として取り入れた。

ボランティアルームの仕組み



ボランティアコーディネートを学生スタッフが行うことにより、学生のボランティアへの参加をより促すことができると考える。学生スタッフがボランティアコーディネートをを行うにあたって、気を付けなければならないことがある。それは、地域と学生の間を対等かつ互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にコーディネートを行うために、学生スタッフ一人ひとりがボランティア先との連絡を取り合うことの責任や意識を持ち取り組んでいく必要がある。

3. コーディネート状況

今年度、地域から依頼されたボランティア情報件数は 94 件(随時募集ボランティア含む)であり、コーディネート件数は 36 件であった。コーディネート人数は、のべ 185 人になる。一見、多いように思われるが皇學館大学は約 3000 人の学生が在籍しているので、約 18 人に 1 人という低い割合でのボランティア参加となっている。また、同じ学生がいくつかのボランティアに参加していることから参加の実人数はもっと少ないことになる。これらのことから、ボランティアに参加する学生がまだ少ないと言える。内訳は以下の通りである。

ボランティア総件数	コーディネート件数	コーディネート人数
94 件	36 件	185 人

ボランティアルームでは以下のように依頼されたボランティアを 3 つのジャンルに分けて情報を発信している。

- ① 福祉系：高齢者施設、障がい者（児）、福祉競技スタッフなど
- ② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
- ③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど

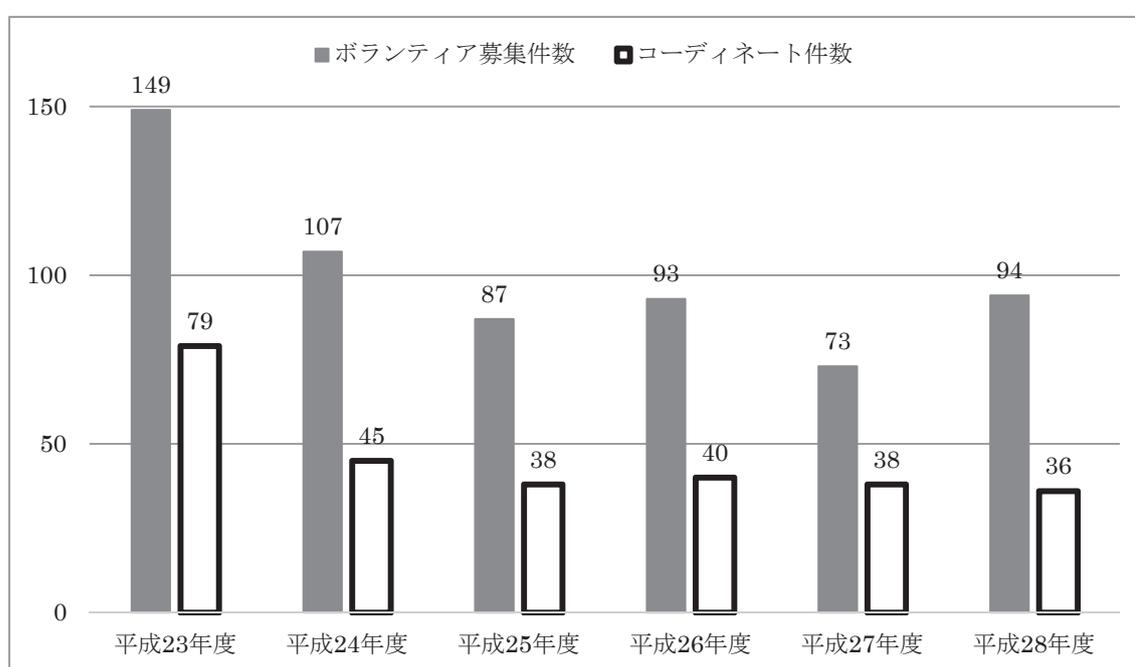
3 ジャンルのボランティア情報件数は以下の通りである。また、一つの情報に複数のジャンルが重なることもある。

	ボランティア件数	コーディネート件数	参加人数
福祉	25 件	7 件	15 人（昨年より 4 人減）
地域	35 件	12 件	62 人（昨年より 12 人減）
子ども	34 件	17 件	86 人（昨年より 51 人増）

ボランティア件数は、地域援助と子どもサポートの 2 ジャンルのボランティア依頼件数が多いことがわかる。本大学には教育学部があり、教員志望の学生が集まるということから、子どもサポートのボランティア依頼件数が多いのではないかと考えられる。地域援助のボランティア依頼件数の増加は、学生スタッフが地域の社会福祉協議会を訪問すること

で得ることができたのではないかと考えている。また、子どもサポートのボランティア参加人数に注目すると 86 人（昨年よりも 51 人増加）の学生が活動し、爆発的に増加したことがわかる。これは学生のニーズが多く、また月別ボラを新しい情報発信の方法として取り入れたことによる成果になるのではないかと考えられる。このように学生が地域に出て、地域や子ども、福祉のためにボランティア活動ができるように導いていくことが大きな課題となる。学生スタッフ一人ひとりがボランティアに参加し、その喜びを新たな学生に伝え、ボランティアの輪を広げていく必要がある。

前年度までのボランティア依頼件数とコーディネート率を比較すると以下の通りである。



ボランティア募集件数は、昨年度と比べ増加していることがわかるが、コーディネート件数は、平成 24 年度からほぼ変化はない。コーディネート率という観点で見ると低下しており、我々のサービスを向上させることが今後の課題であると考えられる。

コーディネート件数が減少している原因として考えられるのは、やはりボランティア参加者を集められないことにある。ボランティア先までの交通手段が無いという問題だけでなく、メール配信時の文章や掲示板情報の充実が足りていない結果であると考えられる。

しかし、今年度から新しく情報発信の方法として取り入れた月別ボラは学生に対する情報発信の方法として有効であると考えているため、来年度以降も継続し、ボランティアに興味がある学生が気軽にボランティアルームを利用できる環境作りを続けていかなければならない。

4. 学部学科別参加人数

学科別のボランティア参加人数は以下の通りである。

学部学科	参加人数
文学部：神道学科	7人
国文学科	32人
国史学科	13人
コミュニケーション学科	18人
教育学部	69人
現代日本社会学部	46人

教育学部は、例年ボランティア登録学生が多く、特に子どもサポートのボランティアへの関心が高い傾向がある。よって学部学科の中で最もボランティア参加人数が多い。しかし、昨年の教育学部の参加人数より16人参加者数が減少していることから関心の低下が懸念される。次いで現代日本社会学部が多いが、文学部の神道・国文・国史・コミュニケーション学科は比較的ボランティア参加人数が少ないが昨年と比較すると増加傾向がある。これは、主に教員を目指す学生によって子どもサポートのボランティアへの関心が高まったためであると考えられる。今後さらに参加者数の増加を目指すには、今まで関わりがなかったジャンルにこそ挑戦し、学生のうちに見聞を広めていく活動を推進していく必要があると考える。

5. ボランティア登録学生についての詳細

ボランティアメール登録学生からみるコーディネート分析。今年度のメール登録学生は411名である。登録学生の詳細は以下の表になる。

登録学生詳細						
学部学科別		学年				学科別合計
		1年	2年	3年	4年	
文学部	神道	11	1	2	0	14
	国文	23	5	16	0	44
	国史	25	10	10	2	47
	コミュニケーション	27	4	9	0	40
教育学部		125	52	35	21	230
現代日本社会学部		22	5	5	1	36
学年別合計		233	77	77	24	411

学部学科別でみると、教育学部の学生が圧倒的に多いことがわかる。しかし、ボランティアは子ども系のボランティアだけではない。どの学部学科の学生でも、地域・福祉・子どものボランティアに興味を持ち、参加促進に繋げていく工夫が必要である。また、文学部は登録学生が少ないと感じるであろう。しかし、昨年よりも登録学生の人数が増加している。これに対して、現代日本社会学科の登録人数が減少しており、現代日本社会学部の学生のニーズを改めて調査し、興味を持つ広報の仕方を見直す必要があると考える。

4月に行われた各学年のガイダンスでは、ボランティア登録への呼びかけを行い、一人でも多くの学生がボランティアへの第一歩を踏み出せるようにしていかなければならない。また、学生スタッフから学生へとボランティアの良さをより具体的に伝えていく必要がある。そのために、学生スタッフが学生へ発信できる年度初めのガイダンスで、各学年に合ったDVDを上映している。1年生のDVDは、ボランティアルームの存在やボランティアの種類、ボランティア参加の手続きなどが分かりやすい内容となっている。2・3年生のDVDは、学生生活に慣れ、勉強や部活、バイトと忙しい生活の中でもボランティアに参加して、ボランティアでしか経験できないことを見つけるような内容である。4年生のDVDは、残りの学生生活をどう過ごすのか、社会人になるまでに経験しておきたいことをボランティア中心に伝える内容となっている。

課題はあるが、学生の心にボランティアの素晴らしさを伝えていくために、試行錯誤しながら、日々学生スタッフはアイデアを出し合い、新たなことに挑戦している。今年度は新たに実行した月別ボラでは成果が得られたと考える。この成果を受け、来年度も学生の様々なニーズに答えられるような手立てを考え実行していく必要がある。ボランティアを身近に感じ、時間を作って誰かのために行動できる学生が一人でも多く増えるように私たち学生スタッフはサポートしていきたい。

(文責：文学部コミュニケーション学科3年 河口 比加理)

2. ボランティアルーム企画・活動報告

HELLO ボランティア 活動報告

1. 目的

日頃、ボランティアに興味はあるがなかなか参加できない学生に対し、参加促進をするために行った。また、ボランティアルームに入りづらい学生に対し、ボランティアルームに親しみを持ってもらうために行った。

2. 活動内容

日時：平成 28 年 4 月 12 日(火)14：40～16：10

平成 28 年 4 月 20 日(水)13：00～14：30

担当者：柘植美早、出口真太郎、上野寛登、山口遼

参加学生：1 日目 9 名(1 年生 6 名、3 年生 2 人、4 年生 1 年)

2 日目 1 名(3 年生)

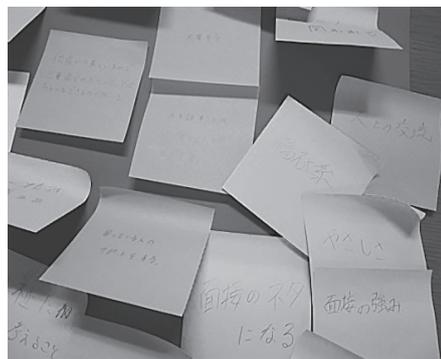
活動内容：初めにボランティアルームの紹介を行い、どのような活動をしているのかを説明した。次にボランティアに対するイメージを学生から聞き出し、現在どのような不安を抱えているのか共有した。それを踏まえて、学生スタッフが始めてボランティアに参加したときのことやボランティアに対する思いを語った。最後に、スタッフの体験談を聞いて自分の中で変わったことなどを話し合う機会を設けた。

活動報告：これまでの HELLO ボランティアは他の教室を取って行っていたが、今回はよりボランティアルームに親しみを持ってもらうため、ボランティアルーム内で行った。

3. 活動風景



自己紹介の様子



参加学生から出た意見



スタッフと参加学生が交流している様子

4. 参加者からの意見

- ・もっと堅苦しいものだと思っていたけど、楽しそうな雰囲気だと思った。
- ・ゴミ拾いだけしたいと思っていたが、他のボランティアにも参加したいと思った。
- ・もっとたくさんの人と関わりを持っていきたいと思った。
- ・ボランティアに気軽に参加できそうだと思った。
- ・ボランティアをすることで自分を見つめなおせると感じた。
- ・友達を誘ってボランティアに参加しようと思った。

5. まとめ・反省

ボランティアルーム内で企画を行ったことにより「何かしている」と思って参加してくれた学生が多かったように感じる。第1回目は参加学生が多くボランティアルームがいっぱいになるほどであった。ボランティアルーム内で何か催し物をする 것도参加者向上に役立つのではないかと考える。

参加者の意見からもボランティアに対するイメージは良い方向へ向かっており、マイナスイメージを払拭できたように感じる。

一方で、第2回目は学内の講義のため、参加人数が少なかった。

どのようなボランティアがあるのか、おすすめのボランティアなどをもっと紹介するべきであった。結局、ボランティアのいいイメージを残すことしかできなかった。

【文責：教育学部教育学科4年 柘植 美早】

サマースクール 活動報告

1. 目的

サマースクールは、松阪市社会福祉協議会が主催する企画であり、ボランティアルームは松阪市社会福祉協議会と合同で企画・運営を行ってきた。今年度でサマースクールは9回目である。

この活動は、夏季休業中の小学生を対象としており、福祉のテーマに沿って、創造性や協調性を身につけることができる内容を毎年実施している。また、参加してくれた大学生には子どもたちと楽しい時間を過ごすだけでなく、子どもたちとの触れあいを通して接し方などを学んでもらうことを目的とした。

2. 活動内容

昨年度のサマースクールは、5つのブースを10分ごとに子どもが回っていく福祉体験ゲームラリーを行った。

昨年の内容を受けて、今年度はどのような形で進めるかについてスタッフで話し合いがもたれた。昨年のゲームラリーでは1ブース10分ごとにゲームを進めたことにより時間が押すことなく予定通りに進行することができたことから、今年もゲームラリーを行うことにした。さらに、子どもが福祉についてしっかりと考えられるように、ブースの数を4つに減らし、1つのブースに取り組む時間を長く設けた。また、昨年広報活動を行った際、「何曜日は部活だから行けない。」という学生の声を多く耳にした。より多くの学生に参加してもらえるよう、3日間とも違う曜日に設定した。そしてブースの数や子どもの参加人数などを考慮して各日定員を10名とした。日程と内容を次のように設定した。

開催日：8月5日（金）・10日（水）・25日（木） 10:00～17:00

場所：松阪福祉会館

- 内容：
- 1) 宿題を教える
 - 2) お昼ごはん
 - 3) 自己紹介
 - 4) 福祉体験ゲームラリー
車いす体験、豆掴み、ジェスチャーゲーム、ごみ釣り
 - 5) お菓子作り
 - 6) 終わりの会
 - 7) 反省会

企画者：文学部2年 川口真奈、教育学部2年 千葉星佳 林佳那

3. 活動報告

学生の参加者は8月5日（金）に8名、10日（水）に7名、25日（木）に8名を得ることができた。1年生と2年生の学生がほとんどで、初めてボランティアに参加したという学生が多かった。所属学部は、教育学部の学生が多かったが、文学部の学生もあった。将来、教職を目指す人がほとんどであった。

ゲームが始まる前は、参加学生と子ども共に緊張して何を話せばいいのか分からず戸惑っている様子だった。ボランティアルームスタッフが話題を振ったり、会話を促すことで徐々に打ち解けられている様子だった。自己紹介やゲームを通して完全に打ち解けられ、仲良く交流する姿が見られた。

今回のサマースクールの福祉体験ゲームラリーは、車いす体験、豆掴み、ジェスチャーゲーム、ごみ釣りの4つのブースで行った。車いす体験では、車いすの組み立て、障害物を避けながらの走行を体験してもらった。障害に当たり転ぶなど怪我がないよう、子どもが車いす体験中には必ず学生が後ろについてサポートをした。豆掴みでは、視野狭窄眼鏡や色彩眼鏡をかけて豆掴みを体験してもらった。ジェスチャーゲームでは、学生も一緒にゲームに参加し、言葉を使わずに身振りだけで伝えることを体験してもらった。ごみ釣りでは、自分で釣ったごみを正しく分別することを体験してもらった。予め各ブースごとに担当者を決めておいた。学年・学部をランダムにグループを作り、様々な学生同士の関わりができるようにした。また、子供たちがゲームに夢中になり本来の目的である福祉についてしっかりと考える時間が少なかったという前回の反省を生かして、今回はゲームを開始する前に各ブースごとにどういう目的をもってゲームを行うかの説明を徹底して行った。ゲーム終了後にも体験して感じたことを話し合う時間を設けた。

次に、お菓子作りでは地域のボランティアの方のお力添えにより、ポテトピザとかき氷作りを行った。火を使うため、子どもに怪我がないよう絶えず目配りと声掛けを行った。野菜がきらいだと言う子どもがいたが、残すことなく自分で作ったピザをおいしそうに食べている姿も見られた。学校での話などをしながら楽しくみんなで食べた。

終わりの会では記念撮影と記念品の贈呈を行った。

子どもが全員帰宅した後、反省会を行った。参加学生から感想や改善点を発表してもらい、参加した全員で共有した。最後に担当学生がまとめの挨拶をして閉会した。

4. 参加学生からの感想

- ・積極的に話しかけることで子どもが心を開いてくれたので嬉しかった。
- ・小さい子とのコミュニケーションは楽しいけど、難しかった。
- ・子どもたちが楽しく遊べるように工夫して接することができた。
- ・初めて参加したけど楽しかった。また参加したい。
- ・子どもたちが喜んでくれて嬉しかった。
- ・子どもとの関わり方を学べた。

- ・子どもたちと話す時間が多く楽しかった。
- ・子どもがどうしたら説明を聞いてくれるか、理解してくれるかを考えることが出来た。

5. 反省

昨年度は、参加学生に対して倍以上のボランティアルームスタッフが一緒に参加し手厚いサポートを行っていた。しかし、ほとんどの作業をボランティアルームスタッフが行ってしまうことで、手持無沙汰な参加学生が多く見られた。そのため今年は、作業を予め均等に分担しておき、参加学生の積極的な参加を促した。ボランティアルームスタッフの参加を最小限の8名にし、主にサポートにまわった。準備の段階では、参加者のサポートをし順調に進められることができた。しかし、本番になると司会などのメインスタッフは子どもの対応に追われ、参加学生のサポートにまで手が回らなくなってしまった。そのような時、他のスタッフが自ら進んでサポートしていればよかったと思う。スタッフ一人一人が、子どもだけでなく参加学生にも楽しく参加してもらえるよう考えて行動していきたい。

昨年度の反省において、福祉体験ゲームラリーのゲームに夢中になり、本来の目的である福祉について考えを深めることができなかつたことがあげられていた。今回の福祉体験ゲームラリーでは、より福祉について考えられるゲームを企画し、ゲームの前後にゲームの福祉の目的について説明することを徹底した。しかし、ジェスチャーゲームなどの盛り上がるゲームでは、まだゲームの楽しさが先立ってしまい、福祉について伝えきれていないように思う。子どもが福祉について楽しくかつしっかり学べるように、ゲーム内容や伝え方を工夫していきたい。

6. まとめ

参加してくれた子どもからも学生からも、高い満足を得られたように思う。今回のサマースクールで初めてボランティアに参加した学生が多く見られた。サマースクールはボランティアルームが運営し多くのルームスタッフが参加することから、初めてでも安心して参加することができるというボランティアの参加促進につながったと考えている。参加学生には子どもと触れ合うことで、子どもとの接し方などを学んでもらえたと思う。そして、福祉体験ゲームラリーのブースを担当したことで、学生自身も福祉について興味関心、理解を深められたと思う。また、ボランティアルームスタッフは、松阪市社会福祉協議会さんのお力添えのもと、企画し運営していくことを経験させていただき、その大変さも学ぶことができた。昨年度と同様に10分ごとに進行するゲームラリーを行ったため、大幅な時間の遅れもなく予定通り進めることができた。また、毎年楽しみにして参加してくれる子どもが多く見られた。そのような子どもが一人でも増やせるよう、また毎年参加してくれている子どもにも毎回楽しんでもらえるよう、これからも新しいゲームを企画して

いきたい。

ボランティア参加学生を交えた反省会では、子どもたちともっと打ち解けられるよう、ゲームラリーに入る前に自己紹介ゲームなどの交流をしてほしいという声があった。子どもとの接し方が分からず戸惑っている参加学生もみられたため、子どもと学生の距離がもっと近くなるよう簡単な自己紹介ゲームなどを次回から企画していきたいと思う。また、ゲームラリーではブースごとに担当を決めていたが、お菓子作りでは特に班指定をしていなかったため参加学生に混乱を招いてしまった。次回からは予め班指定をしておき、参加学生がスムーズに動けるように努めていきたい。

サマースクールは人気のあるボランティアであるため、さらに充実した内容を企画していき、これからも多くの学生に参加してもらえるようボランティアルーム一同力を入れて取り組んでいきたい。

7. 活動風景



(文責：教育学部教育学科2年 林 佳那)

ちょこっと福祉体験 活動報告

1.目的

「ちょこっと福祉体験」は、伊勢社会福祉協議会が主催する企画であり、ボランティアルームは伊勢社会福祉協議会と合同で企画・運営を行った。今年度が初回の活動になる。小学生や地域の学生と関わりたいと思っているものの、ふれあう機会が少ない、なかなかボランティアへの第一歩が踏み出せないというような学生の背中を押すことが出来ないかと考えていた。そこで、伊勢社会福祉協議会からプログラムに参加しないかとお声かけいただき、このような夏期休業中の小学生、中学生、高校生を対象とした、協調性や福祉に関する知識を身に付けることの出来る活動を実施した。参加した大学生は、教員志望学生が多かったため、子ども達とのふれあいを通し、接し方や場作りを学んでもらうことを目的とした。このようなことや、伊勢社会福祉協議会との繋がりを深めることを目的として、「ちょこっと福祉体験」を開催することとなった。この開催が学生のこれからのボランティア参加に繋がる大切な企画になると考えている。

2.活動内容

今回は初めての企画ということもあり、例年行っている松阪社会福祉協議会との企画「サマースクール」を参考にしながら、福祉を体験するためにどのようなことを行うかを考え、大学生を募った。サマースクールとは違い、参加者を人数の小さなグループに分け、小学生、中学生、高校生、大学生がそれぞれのグループに所属する形に設定した。それは、異年齢の交流を楽しんでもらおうと話し合った結果であった。また、車いす体験や老人体験などの福祉体験をするだけでなく、何か子ども達に楽しんでもらうような、自由研究の課題に活かしてもらうようなものはないかと検討し、工作の時間を設ける事を決めた。工作の時間には、マーブリングうちわの作成を行い、参加者同士が助け合う事や一緒に工夫することが出来るように、見守りながら如何にうまくサポートできるかが重要になってくるかという事を確認した。そして、参加者が満足することが出来るように、集中することが出来るようにするにはどのように時間の配分をするべきかを話し合い、それぞれの活動の時間を出来るだけ多めに設定した。全体的に、小学生・中学生が多かったため、場所や教室が分かりやすいように看板を作ったり、案内係を配置したりして、安全で分かりやすくするという事にも心掛けた。そこで、小学生から大学生までが伸び伸びと活動できるように場所や時間、内容を決定し、一日の設定を行った。老人体験では伊勢社協さんに借りたおもりなどをつけ、チームのメンバーで支え合いながら校内を歩き回った。その途中に2か所、福祉〇×クイズのコーナーを設け、正解したらスタンプがもらえるというスタンプラリーにも参加してもらった。特に小学生は楽しそうにしていた。

開催日:平成 27 年 8 月 9 日(火) 9:00~13:00

場所:皇學館大学(711 教室、712 教室、図画工作室)

内容:9:00 受付

説明・自己紹介

9:50 チーム分け

10:00 車いす体験・福祉○×クイズ・老人体験

10:40 マーブリングうちわ

11:10 車いす体験・福祉○×クイズ・老人体験

11:40 711 教室でまとめ

11:50 解散

企画者:教育学部 4 年 柘植美早

2 年 田畑奈那子

文学部 2 年 山口遼、上野寛登

現代日本社会学部 1 年 大田芙侑、片山智貴、奥梨沙

3.活動の様子



↑福祉体験をしながら、スタンプラリー
を行っている様子。

↑福祉体験



↑車いす体験

↑マーブリングうちわを作る様子

4.活動報告

参加者は、小学生 13 人、中学生 2 人、高校生 11 人の合計 26 人の地域の生徒、またボランティアとして参加した大学生は 26 人、ボランティアルームスタッフ 13 人、合わせて 39 人の大学生の参加で予想していたより多くなった。出来るだけ多くの大学生に参加してもらおうと、それぞれ友人や知人に声をかけるようにしたためである。教員を目指している学生が多かったため、子ども達に声をかけている様子から意欲が見られた。

受付の際、チームを分け、それぞれで自己紹介をする時間を設けた。初めは初対面で年齢層が広いという事もあり、やや緊張した雰囲気であった。自己紹介・挨拶後、車いす体験をするグループと老人体験をするグループに分かれた。ここでは車いす体験・老人体験をする中で徐々に緊張がほぐれ、チームごとに協力する機会が多くなり、各チーム助け合っている様子が伺えた。車いす体験では、初めに車いすの仕組みを知ってもらうため、黒板に車いすの図、説明を書いた模造紙を貼り、車いすについてみんなで学んだ。それから、車いすに乗る体験、車いすを押す体験の二役を全員が出来るよう配慮し、時間を設定した。しかし、時間が余ってしまったため、余分な時間が出来てしまい、同じ事を行うことしか出来なかった。ここで時間の配分を多く取るだけでなく、余った時間をどのように有効活用するか考慮していくべきだった。この二つの体験が終わった後、図画工作室に移動し、チームごとに座り、マーブリングうちわの説明・作り方の話をした後、それぞれでマーブリングうちわを作った。なかなか積極的にできず、遠慮している小学生に声をかけている学生の姿が見られ、幅広い年齢の中それぞれの立場を理解し、仲間関係が良くなっていった。マーブリングうちわ作成後、教室に戻り、車いす体験をしていないグループは老人体験、老人体験をしていないグループは車いす体験と分かれ再開した。その間にうちわを乾かし、解散の挨拶時に配布した。大学生の参加やボランティアルームスタッフの参加率が高かったため、問題が起きるといってもなく無事終わることが出来た。全体的に時間通りに進めることが出来たが、うちわを乾かす時間が足りない、教室の準備が十分に整っていないなどの細かい配慮が出来ておらず、余裕がなかった。

5.参加者からの感想

(大学生)

- ・小学生から大学生まで楽しく話すことが出来た。
- ・小学生から大学生までが、福祉体験を通してみんなで協力することが出来た。
- ・地域の学生とふれあうことが出来てよかった。

(小・中学生)

- ・うちわ作りが楽しかった。
- ・福祉についてたくさん学ぶことが出来た。

6.反省

ボランティアルームスタッフでの反省会では、次の三つの点が主に反省点となった。一つ目は、駐車場や会場への案内掲示板・看板を用意していない、余った時間などの案を考えていない、という準備においての点である。この点から、今後はスケジュールをたて、準備をするだけでなく、再度確認を行い、細かい配慮を大事にしていきたい。二点目は、スケジュールが曖昧で、ボランティアルームスタッフや学生スタッフに、時間配分などの情報共有が出来ていないという点である。今回企画に取り掛かるのは早かったが、初回ということもあり、事前連絡をしっかりとる余裕を持つ事ができなかった。参加してくれる学生とボランティアルームスタッフが事前に顔を合わせ、どのような時間配分なのか、どのようにサポートして欲しいかを伝え、曖昧なままでなく、しっかりと当日に備えることが出来るように、説明する場を事前に設けなければならないと判断した。三点目はコミュニケーション能力が足りないということである。そのため二点目の改善点のように説明会で顔を合わせ、スタッフ全員でより良い場を作るために打ち解けたり、たくさん話をする場を設ける必要があると考えた。そして、ボランティアルームスタッフもより多くのボランティアに参加する中で周りとの協調性を高め、福祉体験や工作をより楽しく行えるように改善していきたい。

7.「ちょこっと福祉体験」のまとめ

参加学生からの感想から、楽しく異年齢同士で協力し、たくさんお話をすることができたと伺える。また、小学生だけでなく、中学生から大学生までが夏期休業中というため、それぞれ福祉についてだけでなく、人間関係やふれあい方を学び、気付くことも多かったのではないかと考える。

「ちょこっと福祉体験」は今後も参加していく予定なので、さらに充実した企画になるように今回の反省点やアンケート結果から分かったことを活かし、今後につなげていきたい。また、伊勢社会福祉協議会との関わりを深める中で、ともに協力し、ボランティアスタッフ一同力を入れていきたい。

(文責：教育学部教育学科 2年 田畑 奈那子)

「老人ホームで Let's 文化祭」 活動報告

1. 目的

ボランティアルームの中で、毎年行われている企画の中の1つに秋企画がある。昨年度は、「くらたやま清掃」が行われていた。平成28年度は4年生の発案でこの秋企画を1年生が中心に企画・運営することになった。

1年生を中心として話し合う中で、夏までのボランティアの傾向として子供たちと関わるボランティアが多いという意見があった。また、福祉に関するボランティア依頼も少ないと感じていた。そこでお年寄りと関わることのできるボランティアを企画した。福祉系ボランティアに登録してくれている一般学生へのボランティアの参加のきっかけ作り、またボランティアルームスタッフとしても幅広い年代の方と接する経験をして、今後活かしていこうということになった。

2. 活動内容

まず、ご協力いただける施設、もしくは団体を探すところから始めた。条件として皇學館大学から近いこと、専門的な知識のない人間でもコミュニケーションを取る事ができることなどがあげられた。皇學館大学の周辺で要支援もしくは要介護の人数を加味し、文化祭を行っても迷惑にならないことが大事であると考えた。そして、探している中で「介護付有料老人ホームくらたやま」さんが良いのではないかという意見が出た。介護付有料老人ホームくらたやま（以下、くらたやまさん）は皇學館大学から徒歩20分くらいの場所に位置していた。くらたやまさんのホームページを見てみると小学校などの様々な団体などと幅広く交流をしているようであった。早速お電話をすると快諾してくださったため、くらたやまさんと共に話を進めていくことに決定した。

くらたやまさんと話を進めていく中で、開催時期として11月が良いということになった。ボランティアルームとしては11月もしくは12月の開催を見込んでいたが、くらたやまさんの行事予定では、12月は既に予定が多くあるため11月が好ましいということで決定した。また、時間としては土曜日の午後になった。そして、11月の開催ということで文化祭をテーマに話を進めていくことになった。文化祭ということで、出し物の枠として皇學館大学の部活動にも協力を仰いだ。ポイントとして、お年寄りの方々が興味を持ち、なおかつ芸が大きく分かりやすいことなどが挙げられた。くらたやまさんと共に話し合った結果、奇術部さんとよさこい部“雅”さんに参加して頂く事になった。また、ボランティアルームからも1つ何かしらの企画を考えることになった。この時、何かしら皆で形に残るものを作ろうということになった。

今回、1年生が中心に企画・運営をしていくことになったため、日程なども1年生が参加

しやすい日程にした。午後からのスタートであり、また長時間のボランティアではないなど、気軽に参加しやすいように設定した。

これらの事柄を考慮し、詳細の日程は次の通りとなった。

日時：平成 28 年 11 月 19 日（土）

時間：13：30～16：30

場所：介護付有料老人ホームくらたやま

内容：13：30 開会式

13：35 奇術部 披露

14：05 よさこい部“雅” 演舞

14：35 お菓子タイム

15：00 カレンダー作り

16：00 閉会式

3. 活動報告

当日の参加者はボランティアルームスタッフが 14 名。奇術部が 2 名。よさこい部“雅”が 8 名であった。今回一般学生の参加はなかった。

はじめに 13:30 の開会式に先立ち、一部のボランティアルームスタッフは会場となる介護付有料老人ホームくらたやまさんを飾り付けするために早めにかがった。13:25 頃に残りのボランティアルームスタッフ及び、協力してくださった部活動の方々が合流した。

文化祭は予定通り、13:30 に開会式を始めた。くらたやまの施設長である濱口様のお言葉を頂戴し、少し予定より早かったが奇術部さんの披露に移った。

奇術部さんには事前の打ち合わせで、なるべく変化のわかりやすいものを中心に構成してほしいとお願いしていた。奇術部さんはそのことをとてもしっかりと意識してくださり、老人ホームの利用者の皆さんからも歓声が上がっていた。続いて、よさこい部“雅”の演舞に移った。雅さんは以前にもこのくらたやまさんで演舞をしていた。老人ホームの方々の中にはそのことを覚えていた人もいたようで、雅さんの踊りにあわせて手拍子をしたり、一緒に手を動かしたりする方もみられた。また我々ボランティアルームスタッフや奇術部さんをも巻き込み、会場全体で皆が踊ることによってとても賑いだ雰囲気になった。この部活動の発表も予定よりも早く終わることができた。

この後、休憩の時間としてお菓子の時間が設けられた。くらたやまさんが老人ホームの利用者の方々の分だけでなく、私たちボランティアルームスタッフや奇術部そして雅さんの分まで用意してくださった。参加学生は、利用者の方々と一緒に座り会話して楽しそうにしているグループも多く見受けられた。ここまで予定よりも早く進行していたためこの

お菓子の時間は少し多めにとることができた。

15:00 頃からボランティアルームの催しとしてカレンダー作りを始めた。事前の準備として文化祭の約2週間前にくらたやまさんが四つ切りの色画用紙を用意して下さり、それをこの文化祭の約1週間前にボランティアルームに持って来てくださった。ボランティアルームはご用意して頂いた色画用紙を預かり、12ヵ月を2か月ごとに分け、日にちを書いた紙をその色画用紙の下半分に貼り付けておいた。もう1つの事前準備として各時期の季節を感じさせるものを画用紙で作った。くらたやまさんにはそれぞれの老人ホームの利用者さんそれぞれのお写真をご用意頂いた。これらを色画用紙の何も貼られていない上半分の所に貼り、オリジナルカレンダーを完成させようというものである。この際に、上半分の作成をする際に学生が老人ホームの参加者の方々のお手伝いをコミュニケーションを取りながら進めていった。当初は部活の発表が終わった時点で解散の予定であった奇術部さんと雅さんもこのカレンダー製作の企画もお手伝いをしてくださる事になった。積極的に学生とコミュニケーションを取ってくださる方や、この時点で既に疲れてしまいなかなか作業が進まない方もいらっしゃった。しかし、約1時間で皆が完成することができた。

この後は閉会式の予定であった。しかし、長時間の活動で疲れてしまったために老人ホームの利用者の方々がカレンダー作りを終えると同時に各自のお部屋に戻ってしまった。閉会式は行えず、流れ解散のようになってしまった。奇術部さんと雅さんにはこのタイミングでお帰り頂き、残ったボランティアルームスタッフは使ったものや装飾品の後片付けをし、くらたやまさんの施設長の濱口様と協力をしてくださった老人ホームくらたやまのスタッフさんにお礼を述べ、終了した。

4. 活動風景



5. 参加者の感想・意見

- 普段話せない年代の方と話ができてとてもいい経験になったし、楽しかった
- 始まった時はどうしてよいか分からず、事務的な対応を取ってしまった
- お年寄りの笑顔を見て自分のおじいちゃんとおばあちゃんを思い出した
- 耳が聞こえない方や認知症の方もいる中で、その事に関して事前レクチャーや、くらたやまのスタッフさんから事前にお話を聞くなどをしておけば、よりスムーズに対応ができたのではないかな
- ボランティアルームスタッフだけでもいいので、老人ホームの仕組みや、お年寄りに関わるときの注意点など勉強しておくべきだったのではないかな

6. 反省

今回はボランティアルームスタッフの企画であり、また1年生が企画の大半をするものであった。しかし、その事を一般学生にアピールできず、学生の参加者が0人となってしまった。原因としては、準備を始める期間が遅く、物事を決めることで手一杯となり、食堂前での参加の呼び込み等を行うなどの考えに至らなかった。1年生14人それぞれが企画をしている事の自覚が足りなかったように思う。

また、部活動が2つ（各15分）とボランティアルームの企画（1時間）の計3つを催しとした。くらたやまさんとの事前打ち合わせで、出し物は多くないほうが望ましいという助言を基にした。しかしながら、結果的には閉会式は行えず、流れ解散になってしまった。以上のことから、披露してくださる部活動の数を減らす、もしくはボランティアルームの企画をさらに単純化するなどの対策を講ずる必要がある。

最後に、ボランティアルーム発案のカレンダー作りにおいて、老人ホームの利用者の方々の身体的な状況をあまり把握しておらず、当日に寝たきりの方にはカレンダーが無いという事が起こってしまった。これは、老人ホームそのものの仕組みを理解した上でその方々の状況を事前に聞いておくことができなかつたために起こってしまったと考える。

今後、新しい施設等で活動させて頂く時は下調べをして、しっかりと相手方の仕組みや制度、設備を理解する必要がある。しっかりと知識を頭に入れた上で訪問等を行うことは、相手に対しての礼儀でもありまた話がスムーズに進む事なども考えられる。そして、お年寄りの方々と共に何かしらをする時は行事等の項目は少なく設定しておくべきである。

7. 秋企画のまとめ

1年生が企画した「老人ホームでLet's文化祭」ではあるが、この企画に関するこまめな情報共有はとても強く意識したつもりではあったが、それでもやはりできていなかったと思われる。一部のメンバーが中心的になってしまい、その他のメンバーを置いてきぼりの

ような状態にしてしまったのは全く良くない。個々がしっかりと与えられている事柄を強く意識し、またその自覚を持ち、積極的に関わっていくのと同時に、情報を知っているメンバーは知らないメンバーに伝えるなどして情報共有し、皆が積極的に企画の運営に関わっていきやすい環境を作る事も必要なのではないだろうか。

しかしながら、カレンダーの装飾品に関してはとても良いものができたと思う。各季節にイメージされるものを、利用者の全員の方に行き渡るように利用者の人数分作成した。例えば、ひな人形や三色だんご、蚊取り線香やすいか、月見だんごにクリスマスツリーなど時間も無い中、バラエティに富んだクオリティの高い装飾品を作る事ができた。その装飾品も手伝い、ボランティアルームの企画であったカレンダー作りは改善点もあるが、成功を収める事ができたと考えている。

最後に、まだまだ未熟者であるがためにたくさんのご迷惑をおかけしたにも拘わらず、毎回紳士的で温かく出迎えてくださった介護付有料老人ホームくらたやまの施設長の濱口さんをはじめスタッフさん、そして老人ホームに入られている方々。たくさんの方々に感謝をしなくてはならない。この感謝の気持ちを忘れずに、今回の企画で得た事柄をしっかりと心に刻み、今後に活かしていきたいと思う。

(文責:教育学部教育学科1年 奥山 智司)

倉田山清掃企画 活動報告

1. 目的

ボランティアルームの企画として、今年度も倉田山清掃企画が行われた。

清掃活動を通して年代を超えた学生同士が交流し、身近な地域を綺麗に保つことを心掛けてもらう。ボランティアに参加する事によって、今後の参加者増加を促す事を大きな目的としている。また、地域の方々にもルームの活動を知ってもらうことも視野に入れている。今回で3回目の開催になり、秋の恒例ボランティアとしても定着しつつある。また、回収後のゴミの分別なども適切に行えるように指導を行いたい。

2. 活動内容

3年連続で行われている「倉田山清掃企画」は秋企画の1つとして行われている。今回継続したのは参加してくれた皇學館中学・高校の学生参加者が、毎年行って欲しいという意見があったからである。さらに1年で企画の内容を全て変え、新しいものを考えるよりも改善しながら続けて開催することが重要である感じたためである。

内容はボランティアルームスタッフ・参加学生・皇學館高校、皇學館中学の参加学生と、皇學館大学周辺・倉田山周辺を3チーム、3コースに分かれ清掃活動を行う。企画するにあたり、どのようにして年代の離れた学生同士を関われるようにするかも考慮した。学年が離れているほど話しかけにくいと感じてしまう学生も多いことから学生スタッフが率先して中学生、高校生と一般学生を巻き込みながら盛り上げるように活動を進めるようにした。

設定したコース・時間も去年行った際に少し長すぎる、帰る頃には疲れ切ったという雰囲気や意見から短めのもを設定した。コースの下見を行う段階でも、中高生ならどこあたりまでなら余裕を持って楽しめるのか。危険な場所や車通りの多い道は、できるだけ使わないようにするといった点も考慮した。

終了後にはアンケートと、菓子や飲み物を振舞うことも予定し当日に望んだ。

開催日：	2月18日(土)	10:00~13:30	集合・準備・打ち合わせ
		13:30~	挨拶・説明・自己紹介
		14:00~	清掃開始
		15:30~	清掃終了
		16:00	解散
		16:00	片付け・反省会

場所：皇學館大学内 721 教室・倉田山周辺

内容：清掃活動を通して、学年を超えた学生同士のコミュニケーションを図る。

責任担当者：山口遼、伊藤駿介、川口真奈、

3. 活動報告

今年度の参加人数はボランティアルームスタッフ 8 名、一般学生参加者 1 名、皇學館高校生 21 名、総人数 30 名となった。今回は天候も良く、参加総人数が多く企画も盛り上がりを見せた。

前年度同様「皇學館中学校」「皇學館高等学校」両方の生徒に参加してもらおう予定だったが、中学校の試験期間と活動日が重なってしまったため高校のみの参加となっている。前年度と同じように 3 グループ・3 コースに分かれ 1 時間程度の清掃活動を行った。各グループにボランティアルームスタッフを 2 人程配置し、7 人ずつ高校生が入るように編成した。設定したコースは思ったよりも車や自転車の量が多かったが、声を掛け合いながら取り組むことが出来た。大学到着後各グループが回収してきたゴミの分別を行い、721 教室でお菓子と飲み物を提供した。

休憩を取りながらアンケートに回答をしてもらった。ゴミの集積具合は燃えるゴミ約 2 袋、燃えないゴミ 2 袋だった。活動日以前に皇學館大学学友会が清掃活動を行っていたためゴミは少なく見られた。

参加人数、コースについての詳細は表図に示す。

ボランティアルームスタッフ	8 名
一般学生	1 名
皇學館高等学校学生	21 名

①大学→BIG 伊勢店→伊勢警察署前→大学
②大学→黒門→伊勢病院前→大学
③大学→倉田山球場→大学

4. 参加者からの意見

- ・去年から続けて参加していますが楽しいです。
- ・実際に活動しているとゴミが多いと感じられた。
- ・また来年もあれば参加したいです。
- ・年代の離れている先輩と貴重な話ができて貴重な体験になった。
- ・普段からごみの分別には気を付けようと思いました。
- ・分別が分かりにくいものの方法も知れたので自宅でもやってみようと思った。

5. 反省

今年度も秋の企画として倉田山清掃を行った。まず皇學館中学校、高校試験期間とボランティアの日程が重なってしまい、参加人数が大きく減ってしまった。これはもっと事前から日程調整をするべきだったと感じられた。また一般学生にもっとメールでのボランティア案内や、食堂での呼び込みなどを繰り返し行うべきでもあった。

清掃活動としては大きな問題点はないと感じられたが、やはり年下の生徒とのコミュニケーションをとることの難しさが課題となった。その原因となったと思われるのが、清掃中の各班に渡したごみ袋の数は関係していると考えた。今回は人数が少なかったため全員にゴミ袋・火ばさみを配布した。そのため個人でゴミ拾いが出来る状態にしてしまった。学生同士が協力し合って清掃を行う場面が少なかったように感じられた。学生スタッフが積極的に声を掛けコミュニケーションが全く取れないという状況は防ぐことができた。

各班の清掃コースをリーダーに任せていたが、どうしても早く終わる班と遅くなってしまいう班があった。その場合にどのように行動するか細かい指示を出していなかったため、早く教室に戻ってもやることがない班もできてしまった。教室についても参加者がスムーズにボランティアに参加できるように、飾りつけや雰囲気を作っておくべきである。

総合的に「コミュニケーション」が今回の大きな問題点だといえるのではないだろうか。スタッフ一同、普段のボランティアからコミュニケーション能力を向上させる必要があるだろう。また、参加して終わりだけでなく、次に繋げることが大切であり、おすすめボランティアや年間活動のカレンダーのようなものも作成し配布すればもっと幅広く情報発信できたのではないかと考える。

6. 活動風景

清掃中の様子



班の集合写真



集合写真



【文責：文学部国文学科2年 山口 遼】

熊本・鳥取地震救援募金 活動報告

1. 目的

2016年4月14日21時26分に熊本県熊本地方を震源に最大震度7、マグニチュード6.5の地震が発生した。その後も熊本県、大分県で震度6の地震が相次いで発生し、死者は225名、負傷者は2681名に及んだ。また、2016年10月21日14時07分に鳥取県中部を震源に震度6弱、マグニチュード6.6の地震が発生した。この地震による、建物の崩壊などにより、避難者は一時2980名に及んだ。

東日本大震災から5年経過し、徐々に復興しはじめたとき、再び国内で2件の大地震が発生し一刻も早い復興が望まれた。そこで、ボランティアルームとして少しでも力になれるよう、我々が募金活動をして復旧のための支援をすることを目的とした。

2. 活動内容

昨年度もネパール大地震救援募金を行うなど、ボランティアルームでは国内外問わず、災害支援のための募金を行っている。今年度は国内の2か所で大地震が発生し甚大な被害があったため、学生スタッフで話し合いをもち、募金を行うことにした。また、以前に東日本大震災の募金を学外で行った経験から、学内だけではなく学外でも募金を行うことで、さらなる支援ができるのではないかと考え、熊本地震の募金活動は学外でも行った。

開催日：熊本地震学内 4月18日（月）12:20～13:00、4月19日（火）12:00～13:00

熊本地震学外 6月12日（日）10:00～12:00

鳥取地震学内 11月14日（月）12:20～13:00、11月15日（火）12:20～13:00

場所：熊本地震学内 皇學館大学 食堂、6号館1階外、芝生広場

熊本地震学外 伊勢市駅 JR 側

鳥取地震学内 皇學館大学 食堂、6号館1階外

企画者：文学部3年 河口比加理、文学部2年 山口遼、川口真奈

3. 活動報告

まず、学生への宣伝方法としては、メール・Twitter・ボランティアルーム前ホワイトボード・掲示板を活用した。

活動の事前準備として、学内募金は学内で募金活動をするための許可書を大学に提出した。学外募金は伊勢市駅 JR 側で募金活動をさせていただけるよう伊勢市社会福祉協議会の方に申請した後、学外で募金活動をするための許可書も大学に提出した。また、集まったお金をボランティアルームで管理せず、保管から日本赤十字社への送金までの管理全てを、皇學館大学学生支援部に委託する誓約を交わした。

熊本地震学内募金は当日、食堂・6号館1階外・芝生広場の3箇所にて実施し、1箇所につき5人のスタッフをおく体制で行った。募金箱は4つ作成し、食堂に2つ、その他に1つずつ設置した。食堂は多くの学生が利用すると考えられたため、スタッフと募金箱を他よりも多めに配置した。募金してくださった人数は、2日間で延べ約200名で、合計80,809円が集まった。募金に参加してくれた方の中には、2日間連続で募金に来てくれる学生や、教員・大学職員・大学でお弁当を販売しに来ている方たちもいて、関心の高さがうかがえた。

熊本地震学外募金は当日、伊勢市駅JR側にて実施し、スタッフ18名、一般学生2名で行った。募金箱は作成した5つと伊勢市社会福祉協議会の方にお借りした5つの計10個を設置した。募金してくださった人数は、約100名で、合計43,702円が集まった。多くの観光客の方が募金に参加してくれ、中には熊本県からの観光客の方もいて、「まだまだ復興には時間がかかりそうだ」という現地の状況を知るとともに、地震発生から2か月経過していたが変わらない関心の高さがうかがえた。

鳥取地震学内募金は当日、食堂・6号館1階外の2箇所にて実施し、1箇所につき5人のスタッフをおく体制で行った。募金箱は4つ作成し、食堂と6号館1階外に2つずつ設置した。募金してくださった人数は、約50名で、合計10,093円が集まった。募金に参加してくれた方の中には、教員、大学職員、大学でお弁当を販売しに来ている方たちも募金をしてくれて、関心の高さがうかがえたが、募金参加人数は少なく、これは学生への宣伝不足が原因であると考えられる。

4. 反省

熊本地震の学内募金は地震発生から5日以内に実施し、多くの学生が関心を持ち募金に協力的であった一方、鳥取地震の学内募金は地震発生から3週間で実施しており、また、鳥取地震の募金を行った時期に募金による詐欺事件のニュースが広がっていたため、学生が募金に対する不信感を持っているように感じた。そのため、学生に信頼してもらえるよう、呼びかけを工夫するべきであった。熊本地震の学外募金は実施時期が遅く、天候にも恵まれなかったが、多くの方が協力してくれ、呼びかけやプラカードの効果が感じられた。

以上のことから、地震等の災害が国内外で起こり、募金活動を実施する場合は、素早く準備し実施すること、広報や活動時の呼びかけ等の工夫が重要であると感じた。

5. まとめ

今回の募金活動では、熊本地震学内募金で80,809円、熊本地震学外募金で43,702円、鳥取地震学内募金で10,093円集まり、日本赤十字社を介して熊本県に合計124,511円、鳥取県に10,093円送ることができた。

ボランティアルームでは、今まで様々な企画を行ってきたが学生の参加者確保が思うようにいかず、今回の募金活動もあまり多くの金額は集まらないと予想していた。しかし、

予想を超える額のあたたかい気持ちが集まった。この結果は、ボランティアルームの今後の活動に大いに活かすことができると考える。

今回の活動を滞りなく進めることができた要因として、大学への各種申請・募金箱の作成・宣伝活動を速やかに行えたことが挙げられる。メールや掲示板を見ていない学生にも直接宣伝するなど、宣伝に工夫を加えると多くの学生を巻き込むことができることがわかった。そして、今まで様々な企画を行ってきたスタッフの経験を上手く活かすことができ、全員で協力して準備・活動できた。

ボランティアルームとして、この活動から得られるものは多かった。具体的には、学外でのボランティア活動に抵抗がある学生でも、学内で行う活動であれば気軽に参加しやすいということ。多くの学生にボランティア精神があり、身近に機会があれば参加すること。また、学外にはさらに高い関心があることがわかったことが挙げられる。

6. 活動の様子



熊本地震学外募金の様子①



熊本地震学外募金の様子②



鳥取地震学内募金の様子①



鳥取地震学内募金の様子②

(文責：文学部コミュニケーション学科3年 河口 比加理)

伊勢市ボランティアセンターフェスティバル 活動報告

1. 目的

平成 28 年度から、伊勢市社会福祉協議会(以下「伊勢社協」という)が新しいイベントを開催した。その具体的なイベントの内容等を議論する実行委員会に、ボランティアルームスタッフが入らせていただくことになり、代表で 4 回生の出口が選ばれた。

イベントの目的は、近年多様化しているボランティア活動の情報を提供し、支えあいの意識を高め、市民がボランティア活動へ積極的参加を図ることであり、このイベントはボランティアルームを含む多くのボランティア団体にとって日々の活動を知っていただけるだけでなく、団体同士の新たなつながりができる貴重な機会になると考えられた。

2. 活動内容

8 月より実行委員会議が始動し、イベントの骨組みは伊勢社協が決め、委員が肉付けしていくという流れで進められた。イベントのコンセプトは、「知る 体感 交流」に決定し、イベントのスローガンは伊勢社協の登録団体から募ったものの中から「**find your volunteer!**〜見つけよう あなたのボランティア〜」が選ばれた。

イベントには 144 の登録ボランティア団体の中から 41 団体がブースを出展し、日々の活動等を紹介することになった。また、ボランティアに興味はあるがなかなか一歩踏み出せない方の為にボランティア講座や、熊本地震への支援活動を社協・企業・学生の視点から報告する会、茶の湯・煙霧・給水の体験スペース、子ども向けのスタンプラリー等が行われることに決定した。

日時や詳しい内容は以下の通りである。

開催日：11 月 26 日（土）10：00～14：00

場所：伊勢市ハートプラザみその

主催：伊勢市社会福祉協議会

内容： 1) オープンセレモニー
2) ブース出展
3) 茶の湯体験
4) 煙霧体験
5) 給水体験
6) ボランティア講座
7) 熊本地震支援活動報告会
8) 防災グッズ展示
9) フードコート
10) ボラセン GO（スタンプラリー）

- 11) バルーンアート
- 12) キャラクター演出 (イセシマン等)
- 13) 物販コーナー
- 14) ポップコーン、綿菓子無料配布
- 15) 盲導犬コーナー
- 16) やさしいまちプロジェクト啓発
- 17) 羽毛プロジェクト啓発および羽毛製品回収
- 18) クロージングセレモニー

3. 活動報告

イベントの来場者数は、チラシの配布実績等から 2,193 人と発表されたが、実際にはそれ以上の来場者がいた。来場者の年齢層は幅広く、会場は大いに賑わった。

ボランティアルームからは、ブースでの接客係とイベントの運営係としてスタッフ 9 人が参加し、一般学生も 1 人参加した。イベントの運営係として主に任された仕事としては、スタンプラリーをクリアした子どもの対応、ボランティア講座等の受付、参加団体の昼食配りであった。

ボランティアルームが出展したブースに興味を持ってくれる人は多く、用意していたパンフレットが予想以上にはけ、地元伊勢市での認知度向上に大きな手応えを感じた。また、参加団体から声をかけていただくことも多く、今後の活動につながる可能性も感じる事ができた。

4. まとめ

伊勢社協が新しく指導させたイベントの実行委員会にボランティアルームスタッフを参加させていただいたこと、そしてブース出展をさせていただいたことは、ボランティアルームにとって大きな一歩になったことは間違いない。ボランティアルームは、伊勢市にありながら伊勢市での認知度が低く、それを問題視してきた。今回このイベントを通し、伊勢市に住む人々に直接自分たちの活動を紹介し、伊勢市で活躍している団体とつながるきっかけを作ることができた。その上、参加したスタッフのほとんどが下級生であった為、今後の活動における良い経験となった。このイベントでボランティアルームは、多くの新しい刺激と成長のきっかけを得ることができたのである。

また、ボランティアルームの存在と活動を知ってもらえたことで、伊勢市に住む人々や他の団体にも刺激を与えられたのでないだろうか。ボランティアルームの力はまだまだ微々たるものだが、地域の為に若者が力を発揮できる土台を作り、その先頭に立ち、人の輪を広げるサポートをすることこそがボランティアルームの使命であると改めて感じたイベントであった。

5. 活動の様子



(文責：現代日本社会学部現代日本社会学科4年 出口 真太郎)

倉陵祭模擬店 活動報告

1. 目的

ボランティアルームは今年度も「第 55 回皇學館大学倉陵祭」にて模擬店を出店した。この活動は地域の方々や学生にもっとボランティアルームの存在を知ってもらう、ボランティアルームを身近に感じてもらう、ボランティアに興味を持ってもらいボランティアの参加者増加促進することを大きな目的としている。販売を行うだけでなく、ボランティアルームスタッフ同士の連携、コミュニケーションを通しさらに結束力を向上させるものとした。売り上げの一部は『日本赤十字社』を通して被災地復興への支援金として募金を行っている。

今年度は初めて室内で販売することになり、どのようにすれば利益を上手く出すことができるかが重要課題となった。

2. 活動内容

昨年度の倉陵祭では「タピオカジュース」を販売した。今年度は出展可能場所の数が出展希望団体よりも少なかったため室内販売となった。ただ、電気を使用する調理器具に限られたため、販売品目がかなり制限された。担当者やスタッフでも話し合いが行われ、まず室内という条件の中でも販売が可能なものを順に挙げていくことになった。身近な物でホットサンドメーカー、たこ焼き器、ホットプレートなど多くの候補があがったが、調理の際の煙や匂いを考慮して最終的にホットサンドに決定した。

続いて味を何種類にするか、具に何を使用するかを話し合った。小倉マーガリン、イチゴジャム、ピザチーズ、リンゴジャム、クリーム、バナナチョコなど多くの候補が挙げられた。この数種類の中で材料費や、学生の好みに合わせて「ピザ味」と「リンゴジャム味」の2種類が選ばれた。材料で一番消費の激しい食パンは1日の販売が終わるごとに近辺の業務用スーパーなどで買い足すこととなった。さらに移動販売を行う際に温かさを保ちつつ、衛生面を持つ発泡スチロールを使用することとした。さらに販売終了後の片付けや、振り分けられたゴミ箱の回収などを分担して行った。清掃活動をしつつチームワークもよく取れていたため、作業が効率よく進められた。

開催日： 10月29日（土）13:00～販売開始

～17:00 販売終了（ゴミ回収・片付け）

10月30日（日）

10:00～販売開始

～17:00 販売終了（ゴミ回収・片付け）

10月31日（月）

10:00～販売開始

～17:00 販売終了（ゴミ回収・片付け）

場所：皇學館大学内・721 教室

内容：倉陵祭で模擬店を出店し、ホットサンドの販売の利益の7割を寄付する。

販売値段：200 円/2 切れ

販売者：ボランティアルームスタッフ

責任担当者：河口比加理、山口遼、松下翠里、杉木真子、中根くるみ

3. 活動報告

3 日間にわたり 1 年生 12 名・2 年生 7 名・3 年生 1 名・4 年生 1 名が調理や販売などを行った。シフト表を作成し一定の時間ごとに調理スタッフと販売スタッフを交互に交代させるようにした。まず販売するホットサンドの概要に移る。

味をピザ味・リンゴ味と 2 種類にし、使用する材料が多いためできるだけ安く購入し、1 枚のホットサンドを食べやすくするため小さく 4 個に切り分け、手が汚れることのないようにアルミホイルで包んで販売した。今回は去年とは違い販売場所が室内になったが、休憩室として利用される方も多く、様々な年齢層の方にご利用していただくことができた。さらに壁面の飾り付けに企画で使用したバルーンアートを使用したことで、訪れた子ども達に大人気となった。

1 日ごとにパンが底をつき帰り道に各自購入するという形になったが、材料が切れて販売停止という事態は避けることはでき、最後までやり遂げることが出来た。

売り上げ総額は 118,200 円となった。純利益は 104,100 円となり、7 割の 70,000 円を日本赤十字社に寄付した。

収支の詳細については表図に示す。

支出

食パン	5,600 円
リンゴジャム	1,810 円
ピザソース	1,770 円
チーズ	2,360 円
アルミホイル	2,560 円
合計金額	14,100 円

収入

売り上げ金	118,200 円
合計金額	118,200 円

支出	14,100 円
収入	118,200 円
純利益	104,100 円

4. スタッフからの意見

- ・予想以上に売り上げが伸び良い結果となった。
- ・学生だけでなく一般の方にも多く足を運んでもらうことができた。
- ・飾りつけに作成したバルーンアートが訪れた子供たちに人気だったので、次回は折り紙など子供にも喜ばれるものを多く作成し、一緒にプレゼントしたい。
- ・材料が多く何度も買い出しに行くことになってしまったので、事前から材料を置いてもらえる店舗を探すことが必要だと感じられた。
- ・運搬する車が1台しかなかったので申請して台数を増やすべき。
- ・調理過程で何点か足りない道具などがあったのでもっと事前から用意しておくべきだった。

5. 反省

今年度も倉陵祭での模擬店を出店することになったが、一番の目的であった収入の7割を日本赤十字社に寄付を今年も完遂することが出来た。

例年との大きな違いは室内での初めての出店となった。そのため宣伝に使用する看板などをもっと多く作成すべきだった、味の種類が多く材料の買出しに何度も行かなければならなかった、車で買出しに向かったスタッフに負担をかけてしまったなど多くの改善点が見つかり、事前から案を出し合う、運搬車を1台だけでなく2、3台の申請を通しておくなど対策しておくべきだった。対策として一定の量の各材料を保持してくれる店舗を交渉し確保すべきだったと考えられる。

会場の飾り付けや材料の買出しなども朝から各スタッフが別々に行動していたため、必要なものを忘れていた事があり、販売の初動に遅れが生じた。

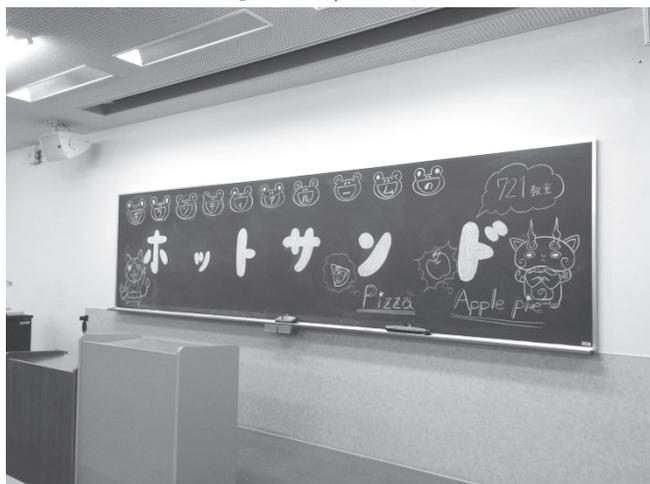
芝生広場での出店では学生や一般の方々が様々な部活やサークルの模擬店を見て回る。しかし、今年度は室内のため学生スタッフが注文を受けて出来上がったホットサンドを発泡スチロールに入れ、デリバリーをすることとなった。この移動販売を行う際も注文が混

乱しないように簡単なメモではなく、ノートと整理券を作って注文状況や優先順位を把握するべきであり、次回の模擬店出店には実践していきたい。

訪れてくれた学生にボランティアにも興味を持ってもらえるように、教室の空いているスペースにボランティアルームのパンフレット・季刊誌・過去の報告書などを自由に持っていけるようにブースを設置しておくべきだったと思われる。また、ボランティアルームおすすめのボランティアや年間の代表的な企画をまとめたカレンダーのようなものも作成し配布すればもっと情報発信できたのではないだろうか。

6. 活動風景

教室の飾りつけ



移動販売の様子



スタッフ集合写真



【文責：文学部国文学科2年 山口 遼】

他大学視察 ～愛知淑徳大学 CCC～ 活動報告

1. 目的

ボランティアルームの活動として昨年度に引き続き、他大学視察を実施した。視察大学として、前回と同じく愛知淑徳大学 CCC での視察を行った。CCC とは、コミュニティー・コラボレーション・センターのことであり、淑徳大学の学生が地域の人々とボランティア活動を通して交流し、その中で知識・技術などを学ぶことを支援する教育組織である。そして、この視察はボランティア情報を学生に提供する機関同士が交流を行い、意見交換によって新たな気づきや発見を見出し、今後につなげていくために行っている企画である。また、ボランティアルームに所属してまだ日が浅い1年生スタッフがボランティア活動に対してより広い視野を持って活動してもらうための気づきをうながすための企画でもある。

2. 活動内容

昨年度の活動内容としては、ボランティアルームと愛知淑徳大学 CCC,それぞれの活動内容の紹介、ボランティアに対する考え方についての討論が行われたが、1年生が積極的に参加する場を作ることができず、意見を出せる場が少なかったことがあげられた。

そこで、今回はその反省を踏まえて、1年生が意見を積極的に発表できるようにするため、個人で考えるテーマとグループで考えるテーマの2つのテーマについて考えてもらうことにした。グループワークとしては、1年生スタッフと CCC の学生スタッフを混合にして、3グループに分けた。そして、ボランティアに関する2つのテーマに沿って、ディスカッションを行い、意見をまとめて発表する形式で行うこととした。

<テーマ>

- ・自身が考える「ボランティア」とは何か?(個人)
- ・学生がボランティアに積極的に参加するにはどうしたらよいか?
この2つのテーマについてディスカッションを行うこととした。

<活動日程>

日時：2月17日(金)13:30～16:00

場所：愛知淑徳大学 CCC(コミュニティ・コラボレーション・センター)

内容

1. 自己紹介(10)
2. それぞれの組織説明(20)
3. 個人でのディスカッション(30)→(35)
4. グループディスカッション(30)→(45)
5. まとめ・交流会(40)→(20)
6. 施設内見学(20)

企画者：文学部国史学科 2年伊藤駿介

3. 活動報告

当日の1年生の参加者は12名と、距離が遠いにも関わらず、参加率が高かったことから、「ボランティアルームを学生たちが入りやすい場所へと変えていこう！そしてより多くの学生にボランティアに参加してもらおう！」という思いがあるようにみられた。今後、この1年生が、ボランティアルームを大きく変えていくのではないかと考える。当日の引率は2年生スタッフの伊藤が行い、大学職員の山際さんに同行していただいた。

愛知淑徳大学 CCC の学生スタッフとして、2年生1人、4年生1人、CCC 職員の秋田さんに参加していただいた。また、当日は幸運にも、「きらきら☆したら」という学生団体が活動を行っており、活動報告を聞くことができた。「きらきら☆したら」という学生団体では、高齢化率 45%という課題を抱える奥三河の設楽町において地域のニーズに合ったまちづくり活動に取り組んでいた。この活動報告において自分を含め、1年生スタッフも活動の規模の大きさに驚いていた。そして、「きらきら☆したら」からも交流会に2人参加していただいた。

初めにそれぞれの自己紹介を行ったが、和やかな雰囲気であったため、会話が弾んでいる様子もみられた。そこから、伊藤が司会を務め、自身が考える「ボランティアとは何か？」についてディスカッションを行った。所要時間 30 分の予定であったが、1年生スタッフの中にはかなり考えている学生もいたことから5分延長の35分とした。個人個人の発表では様々な意見が出た。

<意見>

「人」のためになること。・つながり・コミュニケーション・心のふれあい
交流・行為・自分のことより相手・気持ち・助け合い・新しい道への扉
手段(きっかけ作り)

このように表現は様々であるが、これらの意見の共通性として、自分以外の「人」、すなわち他者が存在しており、ボランティアというのは他者との「つながり」というものが重要であるという意見が示された。また、「新しい道への扉」「手段」といった自身を向上させるためのものという意見もみられた。

次にグループディスカッションに移り、「学生がボランティアに積極的に参加するにはどうしたらよいか？」について考えてもらった。グループとしては、CCCの学生スタッフと「きらきら☆したら」のスタッフが均等に分かれるように3つのグループに分けた。各グループ内でディスカッションを行ってもらったが、非常に熱い議論となっていたので、当初30分と予定していたが、15分延長をした。しかし、各グループからすれば時間が足りなかったように見られた。次に各グループでまとめた意見を発表してもらった。

<意見>

1 班	2 班	3 班
会いに行ける アイドル！	知ってもらおう！！ 来てもらおう！！	ハードル の高さ！
<ul style="list-style-type: none"> ・学生を待っている(受け身) ・興味を持ってもらう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・存在を知ってもらう ・雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の参加=難しい ・参加しやすい高さに工夫

このようにそれぞれの班で工夫を凝らした意見を発表してもらった。

1 班は、学生スタッフがアイドル的存在となり、一般学生は学生スタッフに会うためにボランティアに参加する。結果として、スタッフの存在によって一般学生はボランティアに参加しやすくなるのではないかと考えた。

2 班は、一般学生はボランティアの雰囲気が分からない未知なものとするために参加しづらいのではないかと考える。そこで、学生スタッフが中心となってボランティアの魅力を発信し、参加を呼びかけるべきであると考えた。

3 班はボランティアの最初の参加に踏み出すことは難しいため、一般学生の参加率が低いのではないかと考えた。そこでスタッフが初めてでも参加しやすい環境を作るべきであると考えた。

共通の考えとして、学生は「ボランティア=真面目・堅苦しい」というイメージで捉えている点に着目して、ボランティアのイメージを払拭させることが重要ではないのかと考える。グループディスカッション終了後、まとめ・交流会を行った。

まとめでは、皇学館大学ボランティアルーム・愛知淑徳大学 CCC のそれぞれの長所に気づき、共有し、今後それぞれが抱える課題解決につながる一歩になったのではないかと発表させていただいた。交流会では、当初に比べ、学生スタッフ同士が打ちとけあい、楽しく会話をしている様子が見られた。

施設内見学では、ボランティア通信・ボランティアに関する自作漫画・ボランティアのスケジュールボード・CCC のマスコットキャラクターなど、ボランティアルームでは見られない様々なものを見ることができ、1年生も興味津々の様子であった。

4. ボランティアルームスタッフの感想

- ・大きく違う所をたくさん見つけることができた。
- ・座学だけ聞いているだけでは意味がない!!という面をもっと押し出してもいいのではないかと思いました。
- ・ボランティアルームという場所が「行ったら絶対参加しなければいけないのかな・・・」というような堅苦しいイメージなどもあると感じ、一般学生の目線に立って、学生に寄り添った場所にしていきたいと思いました。
- ・参加人数の差を痛感しました。
- ・自分達以外の学生のボランティア団体と交流する大切さを知りました。
- ・普段の活動や MT とは全く違った刺激を得る事ができました。
普段一緒にいるメンバーとこんなにボランティアについて意見を出し合ったことがなかったので、「いろんな人のボランティアとは？」を聞いて、「そんな考え方があったのか!!」と、新たな発見をさせられました。
- ・CCC さんと交流させてもらって、本当に勉強になることばかりでした。今後も CCC さんと交流していき、たくさん勉強させてもらいたいです。
- ・この視察を通して、今後ルームが大きくなるように、ルームの皆と積極的に意見交換していきたい。

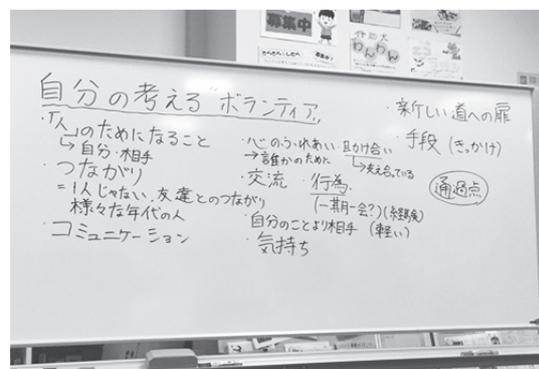
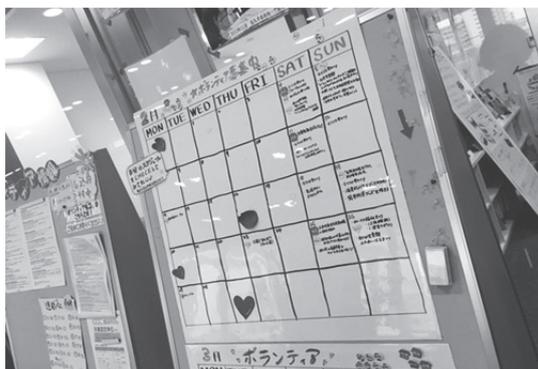
5.まとめ

今回の他大学視察では、前回に比べてかなりの成果があったのではないと思われる。

その成果として twitter における積極的なボランティアの宣伝の向上、スタッフによる学生のボランティア参加促進企画の増加、大学内の他機関との連携強化などがあげられる。また、1年生スタッフは名古屋の大学が運営するボランティア団体 CCC とボランティアルームの規模の違いに度肝を抜かれたのではないと思う。しかし、そこで終わりはせず、ボランティアルームに取り入れることが可能な要素はないか?CCC にはないボランティアルームだけの良さがあるのではないか?ということに気づかされたように感じる。私自身も、2度目の参加ではあったがボランティアルームとの違いに驚きを感じた。ボランティアルームでは子ども・福祉・地域の3種類のみであるが、CCC ではマラソンのボランティアや大手企業と連携して行うボランティアなど、様々なジャンルのボランティアの情報を学生へと発信していた。また、地域ごとにボランティアを探すことができるので、初めてボランティアに参加する学生でも参加しやすい工夫がされていた。このような工夫もぜひボランティアルームに取り入れていきたい。

最後に、この視察を実施する上でご協力していただいた愛知淑徳大学 CCC の職員及び学生スタッフの皆様ボランティアルーム一同感謝を申し上げます。今後も、皇学館大学ボランティアルームがより一層精進していくためにも、交流をお願いしたい。

6. 活動の様子



7. 参加者名簿

学年	学科	名前
2年	国史	伊藤 駿介
1年	国史	松下 翠里
	コミュニケーション	水谷 祐哉
	国文	小林 真亜莉
		森 菜々子
	教育	奥山 智司
		岡崎 なみき
	現代日本社会	奥 梨沙
		杉木 真子
		高田 玲志
		中根 くるみ
		森谷 俊介

<文責：文学部国史学科 2年 伊藤 駿介>

季刊誌 活動報告

1. 目的

今年度は、学生用の季刊誌と学外用の季刊誌の 2 種類を発行した。学生が、ボランティアルームの活動をあまり知らないために、ボランティアに参加する学生が少ないという背景がある。そのため、学生用の季刊誌には 2 つの目的を決定した。1 つ目は学生にボランティアルームの活動を知ってもらうこと。2 つ目はボランティア促進である。

ボランティアルームへのボランティア依頼件数が年々減ってきている。そこで、学外用には、ボランティアルームの存在を地域の方々に知って頂き、ボランティア依頼件数を増やしていきたいと考えた。学生の「ボランティアをしたい」という気持ちに答えるためにはボランティア依頼件数の減少は痛手である。

学外用の季刊誌の目的も 2 つある。1 つ目は、ボランティアルームがどのような機関なのかを学外の人に知ってもらうこと。2 つ目はボランティアを依頼してもらうことである。

2. 活動内容

平成 27 度は、学生用の季刊誌のみ発行していた。ボランティアに参加した学生の報告の場やボランティア情報を一度に多く得ることがないことから、季刊誌の内容をボランティア後の学生の声やボランティア情報の一覧をのせることに決定した。

学外用の季刊誌は、ボランティア依頼件数が年々減少傾向であり、地域の方々にボランティアルームの存在を知ってもらいたいという思いと、ボランティアコーディネートのプロである社会福祉協議会の方と交流を深め、ボランティアルームに対して助言をいただきたいと考え発行することになった。

そこで、学生用の季刊誌には活動の内容と参加者の声だけでなく、活動の様子のわかる写真を載せたり、オススのボランティア情報を載せたりした。

学外用の季刊誌は、ボランティアルームについての説明や活動報告を載せて、どのような活動をしているかを知ってもらうと共に、ボランティア依頼方法を載せた。冬号には、社会福祉協議会の方から頂いたアドバイスをもとに学生のボランティア参加数の内訳を掲載した。

3. 活動報告

学生用の季刊誌は、夏号、秋号、冬号と発行した。ボランティアルーム前と 6 号館の掲示板に配置し、自由に手に出来るようにした。POP を用意して目につきやすいようにした。

夏号には、熊本地震の募金活動報告、HELLO ボランティア活動報告、松阪社会福祉協議会との共同企画サマースクール の 宣 伝、伊勢市社会福祉協議会との共同企画ちよこっと福祉体験宣伝、ボランティア情報一覧、スタッフおすすめボランティアを載せた。秋号には、

松阪社会福祉協議会との共同企画サマースクールの活動報告、伊勢市社会福祉協議会との共同企画ちょこっと福祉体験活動報告、夏のおすすめボランティア活動報告、倉陵祭の宣伝、ボランティア情報、スタッフおすすめボランティアを載せた。冬号には、倉陵祭の活動報告、月別ボランティア活動報告、鳥取地震募金活動報告、月別ボランティアの宣伝、秋企画老人ホームで let 's 文化祭の活動報告を載せた。

	夏	秋	冬
発行日	5月25日	9月27日	12月9日
発行部数	20	20	20
配布部数	19	0	5
残部	1	20	15

学外用の季刊誌は、夏号、冬号と発行し、松阪社会福祉協議会様、伊勢社会福祉協議会様、伊勢バリアフリーセンター様、三重県社会福祉協議会様に設置して頂いた。ボランティアルームの過去の活動を知ってもらうために昨年度の報告書も一緒において頂いた。

夏号には、ボランティアルームの説明、松阪社会福祉協議会との共同企画サマースクール宣伝、伊勢市社会福祉協議会との共同企画ちょこっと福祉体験活動宣伝、平成27年度活動概要、ボランティアルームへのボランティア依頼方法を載せた。冬号には、ボランティアルームの説明、学生のボランティア参加数の内訳、秋企画老人ホームで let 's 文化祭の活動報告を載せた。

担当者：現代日本社会学部 4年 高奥命

教育学部 2年 林雅也 山下夕貴 横山有弥

4. 手に取っていただいた方の声

学生用

- ・ボランティア情報一覧を見て、ボランティアに参加しました。
- ・募金活動をしていることを初めて知りました。

学外用

- ・ボランティアルームの活動の幅の広さに驚きました。
- ・皇学館大学のボランティア参加者の内訳から学生が求めるボランティアを想像することができました。

5. 反省

学生用の季刊誌は、夏号は配布部数が伸びたが秋号冬号は配布部数が伸びなかった。夏号は、年度初めの季刊誌だったことが配布部数増加につながったのではないかと考

えられる。継続して学生が興味を持ってもらう工夫の必要がある。また、季刊誌の内容にばらつきがあった。冬号には、ボランティア情報一覧を乗せることができなかった。また、企画ボランティアについて書けなかったことを踏まえ、来年度は発行日とボランティアルーム企画のボランティア日程を考慮して発行していきたい。学生がボランティアに興味を持ってもらえるような工夫をしていきたい。

学外用の季刊誌は、手に取っていただいた方がボランティアを依頼するきっかけになっているかはわからなかった。掲載内容が確定しておらず、何を伝えたいかを明確にする必要があった。また、学生用の季刊誌と同じような活動報告になってしまったところがあった。学外に出すことをより意識する必要があった。

6. 季刊誌のまとめ

今年度から2種類の季刊誌を発行して、ボランティアルームの活動や存在を多くの方に知っていただけるきっかけになったのではないかと考えている。しかし、ボランティア依頼をしてくださった方のきっかけにボランティアルームの季刊誌がなったということは聞かなかった。ボランティアルームを地域の方々に知っていただくためにより工夫を凝らしていき、少しずつボランティアルームを知っていただける媒体にしたい。また、学生用の季刊誌は配布部数が少なかったことから、ボランティア参加促進までいかなかったと考えられる。POPの工夫や学生が手に取りやすい工夫を考えていきたい。

来年度も、季刊誌を通して一人でも多くの方にボランティアルームを知っていただけるように文面や表紙にこだわっていきたい。

(文責：教育学部教育学科2年 横山 有弥)

3. アンケート報告

平成 28 年度メール登録者対象アンケート報告

1. 目的

今年度もボランティアルームの活動に対するアンケート調査を行った。日頃ボランティアルームで活動しているスタッフが学生の意見を聞く機会はない。ルームスタッフの活動が学生にどのように思われているのか把握するために毎年アンケートを行っている。この一年間はルームスタッフの活動でミスが目立つ印象があった。そこで今年度のアンケートでは前年度までの質問を踏まえつつボランティアルームやスタッフの活動に重点を置いた質問を用意した。スタッフはこのアンケート結果をしっかりと把握しコーディネート業務やボランティア促進企画に活かして活動をしていくことを目的としている。

2. 活動内容

昨年度新たな試みとしてメール配信によるアンケート調査を行った。昨年度のアンケート結果で明らかになったのはメール登録者であってもその一部の学生しかボランティアルームに興味を持っておらず、メール登録者のほんの一部の回答しか得ることができなかったという点であった。

しかし、スタッフで話あった結果あまり興味を持っていない学生全体にアンケートをするより、しっかり考えて回答を返していただく形をとるのがよいと判断し、今年度もメール配信でアンケートを行うことにした。

目的でもあるが今年度はスタッフ全体で細かいミスが目立つ一年となった。そこで今年度のアンケートにはボランティアルームに対しての不満や問題点となりそうな回答欄も一部用意した。ルームスタッフとしてアンケート結果を把握し、次へ活かしていけるよう考えて次のように設定した。

開催日：1月16日～1月27日

対象者：メール登録者411名

方法：Google のスプレッドシート機能を活用し、ボランティアルームのメール登録者に対してメール配信を行った。スプレッドシートを活用した目的は携帯電話・スマートフォンを利用しながらいつでも気軽にアンケートに答えることができるためである。

アンケート内容：アンケートの項目は以下の7項目

- ① 回答者のボランティア参加率
- ② ボランティア情報の入手方法
- ③ 参加したボランティアの感想

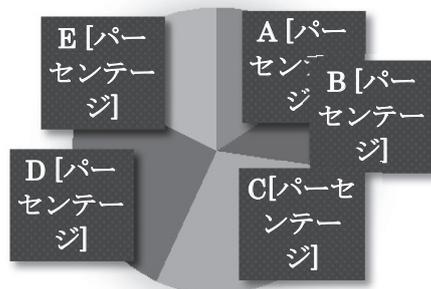
- ④ ボランティアルームに対する印象
- ⑤ ボランティアルームスタッフの対応の満足度
- ⑥ 「月別ボランティア」企画の認知率
- ⑦ ボランティアルームに対しての改善点

3. 結末報告

メール登録者411名に対してアンケートを行ったところ、51人の学生から回答を得ることができた。これはメール登録者の12%になる。少ない回答数ではあるがボランティアルームをより良くしていくための貴重な意見として考えさせていただく。質問は全部で7項目である。以下に詳しい結果を示す。

① 1年でボランティアに何回参加したか？

A 5回以上	8名
B 3～4回	6名
C 1～2回	15名
D 参加していない	13名
E ルームを使わず独自で参加	9名



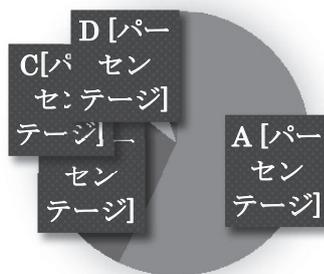
今年度も1～2回参加した学生が一番多く、一度ボランティアに参加していただいた学生を今後も継続的にボランティア活動に参加してもらえるようにすることが今年度も課題となってくる。また回答していただいた総数もメール登録者数の一部であるため全体的にボランティアのイメージや参加しやすくなるような環境づくりも今年度の課題となってくる。また、昨年度より参加していないと回答していただいた学生が増加した。昨年度のアンケート結果ではボランティアに参加していない学生からの回答が少なかった。ボランティアに参加はしてはいるが興味がある学生が昨年度より増えたと思われる。ボランティア参加への一歩を踏み出すために、ボランティアルームとしては企画を催してボランティア参加への手助けになるよう活動している。また本学でも独自でボランティア活動を行っている学生がいることも今回のアンケート結果で把握することができた。

本学の学生のボランティアに対する意識はまだ低いと思われる。しかし、昨年度よりボランティアに興味を持っていただいている可能性のある学生が増えてきていると考え

ている。ボランティアルームの活動が学生とボランティアをより近づけることを目指して活動していかなければならない。

② ボランティア情報をどこで手に入れていますか？

A メール配信	44名
B 掲示板	22名
C SNS	7名
D その他	4名

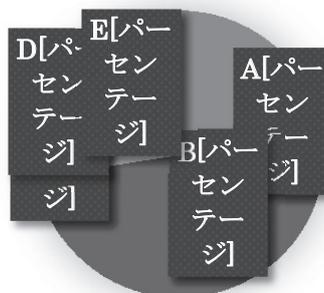


回答者の大多数がメール配信を利用することによって情報を入手していたことが分かる。手軽に情報を確認する手段として用いられるためこれからも利用していきたい。昨年度からメールの内容を多くの学生に見て興味を持ってもらうために、メールタイトルを工夫したり、内容文を太くしたり、色をつけてみたりと工夫してきた。学生目線でボランティアを紹介していくために、今後も続けていくことを心掛けたい。また掲示板を利用してボランティア情報を受け取っている学生のために見やすくしたり、またボランティア情報を見ようとおもっていなかった学生も思わず目を引くような掲示板になるような工夫をしていく必要があるのではないかと考える。

またツイッターを利用して情報を手に入れている学生もいた。最近ではメールの利用よりツイッターなどのSNSを利用している学生も多い。時代の流れに沿って工夫をしていくことを考えている。また友達から情報を共有して参加していただいた学生もいたのでルームスタッフ自身も働きかけ情報を配信していくことを考えていきたい。

③ 参加したボランティアはどうでしたか？

A 新しいことを学ぶことができた	16名
B 人とのつながりを体験することができた	26名
C 自分に自信がついた	8名
D 特に得るものは無かった	3名
E その他	5名

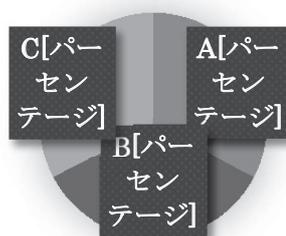


参加した多くの学生が「新しいことを学ぶことができた」「人とのつながりを体験することができた」等、良い体験をしていることがわかる。スタッフとしては参加していただいた学生の多くが満足したボランティアを体験できて安堵している。このように参加していただいた学生が満足した体験を続けるよう、次回参加していただくようにその後をサポートすることを重点的にしていきたい。

ボランティアルームには活動に参加した学生たちの感想をつなげて作っていく『ココロの木』がある。現在、活動後になかなか参加者から感想を集めることができていない状況があるが、アンケートの結果、ボランティアの活動に良い感想を持つ学生が多いことが分かったので積極的に感想を書いてもらうように動くべきだと考える。月別ボランティアなどルームスタッフがボランティア活動と一緒に参加する場合など事前に「ココロの木」のカードを持っていくことを心掛けて活動を続けていこうと考える。今後も学生との距離を近づけるように努力し、参加した学生が気軽にボランティアに参加できるように活動を続けていきたい。

④ ボランティアルームの印象は？

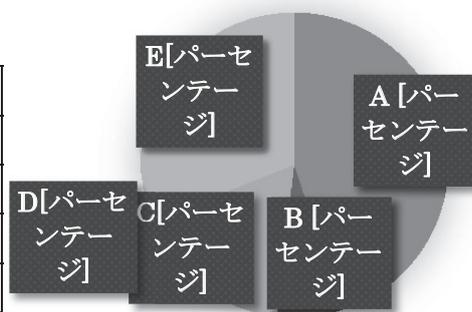
A いつでも利用しやすい	16名
B 明るく入りやすい	17名
C 暗い、ドアを開けにくい	16名



いつでも利用しやすい、明るく入りやすいといった意見が多いことがわかる。今年度は机の位置を変え、ボランティアルームの扉は常に開けて開放的な空間を作ること心掛けた結果、ルーム内の様子が見やすくなったため、以前より掲示を見てボランティアに興味のある学生がすぐにボランティアルームに顔を出すようになってきていると思われる。またルームメンバーの活発な性格によりルーム全体が明るくなったことが要因として挙げられる。しかし、暗い、ドアを開けにくいという印象も同様にもたれている。スタッフが掲示物を作るときなどボランティアルームの奥のほうで作業する機会が多いことが要因として挙げられる。掲示物を作るときは入り口近くの机を使い学生と近くなるような空間を作ること意識していきたい。

⑤ ルームスタッフの対応はどうか？

A 満足している	13名
B やや満足	22名
C やや不満	5名
D 不満あり	0名
E 対応して貰ったことがない	9名

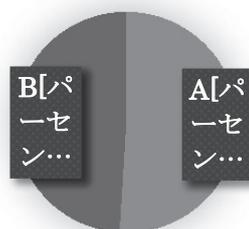


スタッフの対応はおおむね満足している学生が多いことが分かる。引き続き笑顔で明るく丁寧な対応を心がけていきたい。その明るさをボランティアルーム内だけでなく、外へ出ていくことでスタッフの良さが十分に引き出せるのではないかと考える。今後は積極的にボランティアルームの外に出て、ボランティアをしようか迷っている学生をたくさん巻き込んでいきたい。

しかし、ルームスタッフに対応してもらった学生の中に「やや不満」と回答した学生もあった。学生がボランティアの参加申し込みのためにルームを訪れてくれたのにルームスタッフの対応で不満を持つものであったならば、次回のボランティアへのやる気を削いでしまうことにもなりかねない。スタッフ同士での対応の仕方を確認しあい日々心がけていくことでこうした意見は減ると考える。また参加申し込みに来ていただいた学生と機械的な会話だけでなく学校生活の話もスタッフからできるようにして、居心地の良い空間を提供することもボランティアルームに必要なことだと考える。

⑥ 毎月スタッフが参加しているボランティアがあることをご存じですか？

A 知っている	26人
B 知らない	25人



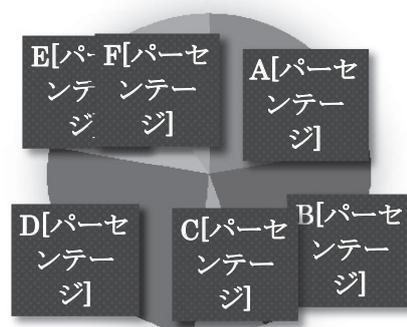
今年度から実施した「月別ボランティア」企画の認知率を聞いてみたところ、ほとんど半分に割れる結果となった。これは回答者の結果であったが学生全体でも同じように考えてよいと思う。「月別ボランティア」企画はボランティアには興味があるが一人だと踏み出しにくい、少し不安に思うと感じる学生のために、ルームスタッフが毎月決めたボランティアに同伴して学生の参加率向上を目的とした企画である。毎月スタッフがオリジナルの掲示物を作って宣伝しているが、学生全体に知ってもらうためにメール配信やツイッター

などでも工夫して宣伝をする、スタッフ自身が知り合いなどに声をかけていくなど心掛けることで学生全体に認知されるよう努力していきたい。

今年度はこの企画によりボランティア参加者を増やすことに成功している。引き続き「月別ボランティア」企画は改善して継続していき、迷っている学生たちを導いていける企画なるようにしていく。

⑦ ボランティアルームに改善点があればお願いします。

A 学内での企画を増やしてほしい	16名
B ボランティアの幅を広げてほしい	16名
C 行きたいときにルームが開いていない	5名
D ルームをもっと入りやすくしてほしい	19名
E 今のままに満足している	9名
F その他	7名



今のままで満足している学生より何か改善をしてほしいという学生がほとんどである。ボランティアにはまだ踏み出しにくい学生が多いのか、学内で行える企画を増やしてほしい学生、また昨年度に引き続き災害や海外のボランティアに興味を持っている学生からボランティアの幅を広げてほしいという意見が多いようである。現在、依頼されるボランティアを子ども・福祉・地域の3つに分類している。ルームスタッフが積極的にボランティアに参加して依頼されるボランティア一つ一つをさらに詳しく分類する、ボランティアの魅力をしっかり伝えることができるようになれば学生たちの要望に応えることができるようになると思う。学内の企画も毎年半期に一回計画して行っている。学内企画に関してはこのペースを変えると質が落ちるのではないかと思う。増やしてほしいという要望はルームスタッフとして大変ありがたい言葉だが、一つ一つの企画の完成度をさらに向上させ、一回の企画を満足できるものにしたいと思う。また学内企画は参加者が伸び悩むことも多々あるので学生に満足できる企画を維持し参加者を獲得していきたい。

スタッフに対しての意見については早急に改善しなければと感じた。「ボランティアルームに入りにくい」という意見が最も多かったが、前述の通り開放的な空間を作ることに取り組んでいる。さらに工夫してこうした意見を減らしていくよう努力していきたい。その他の意見の中に「活動時の説明をきちんとしてほしい」という意見があった。ルームスタッフが積極的に参加して、記録を残しておくこと参加者に事前に説明することができ不安を少しでも解消することができると思う。

アンケートに回答していただいた学生から多くの改善点をいただいている。それならばアンケートに回答していない学生全体からも不満を感じている人もいるのではないかと考

える。ボランティアルームスタッフ全体の問題として改善点を見直し取り組んでいきたい。

4. 反省・まとめ

昨年に引き続き今年度もメール配信によるアンケート活動を行ったが、今年度も多くの回答者を得ることができなかった。アンケートの中にもあったが、今年度実施した月別ボランティア企画の結果のように回答者でも約半数しか認知されていない事実からも学生の中でまだボランティアに対する意識の低さが表れていると思われる。今後はボランティアに少しでも興味がある学生の芽を摘むことなく、しっかりと導けるように月別ボランティアや各企画の向上を目的として活動に励んでいきたい。

またアンケートの結果でもわかる通り、学生の中でボランティアルームは「暗い」「入りにくい」場所としての印象が強いと思われるようである。今年度は様々な改良を行い、以前より入りやすい空間を作ったという気持ちでいたが、一度ついたイメージは中々変えることではないことを思い知らされる結果となった。ボランティアルームで座っているだけでは以前と変わらないイメージをまた与えてしまうため、スタッフ自身が外へ活動していくことが必要であると考えている。

全体として何より学生全体のボランティアに対する意識の低さが今回のアンケートの回答数の少なさに結びついていると考える。学生全体の意識をすぐに変えることは容易ではない。ルームスタッフ一同が一年の活動を積極的に活動し、自分の周りに伝えていくことで自分以外の学生たちに伝播していくと考えている。細かいミスや学生の不満を抱えているようでは学生の意識を変えることはできない。平成29年度は学生の意識を変えることができるようにボランティアルーム一同より一層精進していきたい。ボランティアルームをより良いものとしていくために、学生との距離を近づけていけるように努力して活動していきたい。

【文責：文学部国文学科2年 上野 寛登】

4. 資 料

平成 28 年度 年間スケジュール

日 時	場 所	活動内容
4 月 12 日(火)	ボランティアルーム	HELLO ボランティア
4 月 18 日(月) 19 日(火)	食堂 6 号館 1 階外 芝生広場	熊本地震学内募金
4 月 20 日(水)	ボランティアルーム	HELLO ボランティア
4 月 21 日(木)	図書館	第 1 回全体ミーティング
5 月 19 日(木)	図書館	第 2 回全体ミーティング
6 月 12 日(日)	伊勢市駅 JR 側	熊本地震学外募金
6 月 23 日(木)	図書館	第 3 回全体ミーティング
7 月 28 日(木)	図書館	第 4 回全体ミーティング
8 月 5 日(金)	松阪市社会福祉協議会館	サマースクール
8 月 9 日(火)	711 教室 712 教室 図画工作室	ちょこっと福祉体験
8 月 10 日(水)	松阪市社会福祉協議会館	サマースクール
8 月 23 日(火)	図書館	第 5 回全体ミーティング
8 月 25 日(木)	松阪市社会福祉協議会館	サマースクール
9 月 15 日(木)	図書館	第 6 回全体ミーティング
10 月 20 日(木)	図書館	第 7 回全体ミーティング
10 月 29 日(金) 30 日(土) 31 日(日)	721 教室	倉陵祭
11 月 14 日(月) 15 日(火)	食堂 6 号館 1 階外	鳥取地震学内募金
11 月 19 日(土)	介護付有料老人ホームくらたやま	老人ホームで Let's 文化祭
11 月 24 日(木)	図書館	第 8 回全体ミーティング
11 月 26 日(土)	伊勢市ハートプラザみその	伊勢市ボランティアフェスティバル
12 月 22 日(木)	図書館	第 9 回全体ミーティング
1 月 26 日(木)	図書館	第 10 回全体ミーティング
2 月 7 日(火)	711 教室	平成 28 年度年間反省会
2 月 16 日(木)	図書館	第 11 回全体ミーティング
2 月 17 日(金)	愛知淑徳大学	他大学視察
2 月 18 日(土)	722 教室	倉田山おそうじ企画
3 月 1 日(木)	図書館	第 12 回全体ミーティング
3 月 23 日(木)	図書館	第 13 回全体ミーティング

平成28年度 ボランティア募集一覧

No	名称	所在地	施設名	内容	期間、日時	その他	締め切り	参加学生
1	宇気郡・山里ひなまつり	松阪市	宇気郡地区市民センター	ひな飾り・イベント準備・イベントやひなみせの手伝い・片づけ	①平成28年3月14日(月)～3月28日(土) ②平成28年3月27日(日)～4月3日(日) ③平成28年4月4日(月)～4月8日(金) ①②③ともに10:00～16:00	松阪駅から送迎あり 昼食あり	①平成28年3月10日(木) ②平成28年3月24日(木) ③平成28年3月31日(木)	
2	第39回松阪こどもまつり	松阪市	中部台運動公園芝生広場※雨天時さんざんアリーナ	本部テント業務・アナウンス業務・各出展団体補助・風船準備・着ぐるみ	平成28年4月24日(日) 8:30～16:00	臨時シャトルバスあり 昼食あり	平成28年4月7日(木)	1名
3	こども環境フォーラムin伊勢・皇學館	伊勢市	皇學館大学記念講堂	伊勢志摩サミットに伴う、子どもによる環境フォーラム ①駐車場誘導係②案内・補助等スタッフ	平成28年4月24日(日) 12時開場、13時～	スーツ着用	平成28年4月21日(木)	9名
4	クリーンアップ作戦&見守り・見回り活動	伊勢市	宇治浦田親光案内所(B2駐車場)	内宮周辺の清掃と見守り・見守り活動	平成28年5月8日(日) 8:30～9:45	清掃道具は各自持参	平成28年4月27日(水)	9名
5	第19回障がい者スポーツ大会・フライングディスク	津市	三重県身体障害者総合福祉センターグラウンド	フライングディスク競技の進行に関する補助	平成28年5月21日(土) 8:30～	昼食あり 雨天時体育館実施	平成28年4月14日(木)	
6	サミット祭り	松阪市	三重県立みえこどものしろ	各ブースの補助	平成28年4月29日(金) 9:30～17:00		平成28年4月21日(木)	
7	EarthDay伊勢2016	伊勢市	宮川ラブリバー公園	駐車場係	平成28年4月24日(日)		平成28年4月21日(木)	
8	第14回6施設合同運動会	度会郡	わかば学園運動場・体育館	運動会のお手伝い・利用者介助	平成28年5月14日(土) 10:00～15:00	昼食あり JR田丸駅まで送迎あり	平成28年4月28日(木)	
9	学生ボランティア	伊勢市	伊勢市生涯学習センター「いせトピア」	「子どもわくわく体験フェスティバル」や伊勢市主催イベントへの参加	平成28年5月28日(土)～平成29年3月末	事前研修あり	平成28年5月10日(火)	
10	志摩ふれあいボランティア	志摩市	志摩ふれあい教育支援センター	児童・生徒の支援			平成28年5月26日(火)	
11	松阪市児童発達支援ボランティア	松阪市	開催日により異なる	レクリエーション参加・利用者補助付き添い	平成28年7月25日(月)～8月30日(火)8:30～16:00	事前にオリエンテーションあり	平成28年6月23日(木)	2名
12	ふれあい体育祭	松阪市	ハートフルみくも	大規模な体育祭の各プログラムの補助など	平成28年6月5日(日) 9:45～15:00	シャトルバスあり	平成28年5月12日(木)	6名
13	「生きるを学ぶ」ボランティア	松阪市	波瀬ゆり館	体験学習の手伝い	平成28年5月27日(水)～8月11日(木)		平成28年6月16日(木)	10名
14	新道の店 すてっわん12周年バザー	伊勢市	新道の店 すてっわん	バザーの手伝い	平成28年5月15日(日) 9:00～14:30	9時集合	平成28年5月13日(金)	
15	第20回ふれあい広場	伊勢市	二見老人福祉センター前駐車場とその周辺		平成28年6月5日(日) 9:30～13:30		平成28年5月17日(火)	
16	伊勢託児ボランティア	伊勢市	中央児童センター	乳幼児の託児	平成28年6月7日(火) 6月14日(火)6月28日(火)	10:15までに現地集合	平成28年6月2日(火)	1名
17	フレンズ七夕祭り	伊勢市	小俣農村環境改善センター	障がい者の児童とのイベント運営と補助	平成28年7月3日(日) 9:30～11:40	事前学習あり	平成28年5月24日(火)	
18	夕涼み会ボランティア	度会郡	宮の里	屋外での食事・ダンス・打ち上げ花火などの準備・片付け	平成28年7月23日(土) 17:00～19:30		平成28年6月9日(火)	2名
19	第13回ちびっこ博士グランプリ	伊勢市	いせ市民活動センター	子ども達と一緒に外宮を歩き、クイズ大会のサポート	平成28年8月1日(月) 8:30～12:00	昼食あり	平成28年7月15日(金)	11名
20	第9回かえっこバザールinたき	多気郡	多気町農業者トレーニングセンター	開場の設営運営・当日の運営・片付け	平成28年7月24日(日) 9:00～17:30 7月23日(土) 13:00～17:00(可能な場合)		平成28年7月14日(木)	
21	神社港老人クラブ	伊勢市						2名
22	熊本地震支援募金ボランティア	伊勢市	伊勢市駅JR側・内宮前	熊本地震の義援金募金活動	平成28年6月12日(日) 10:00～12:00		平成28年6月9日(木)	22名
23	車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮 内宮	伊勢神宮内宮参道での車いす介助・正宮前階段での車いすの持ち上げ・参加者との会話	平成28年7月23日(土) 7:30～11:00	7月17日(日)事前レクチャーあり	平成28年7月7日(木)	5名
24	ボランティアまつり2016	伊勢市	伊勢市福祉健康センター	視覚障がい者のかたのガイドヘルプ・調理ボランティア補助・など	平成28年7月24日(日) 8:30～15:00	エプロンと三角巾持参	平成28年6月30日(木)	
25	HANABI*ボランティア	伊勢市	宮川川畔	ゴミの分別案内	平成28年7月16日(土) 15:30～23:00	荒天時9月10日(土)、11日(日)に順延	平成28年6月30日(木)	2名
26	アミーユ松阪	松阪市	アミーユ松阪	施設の夏祭りでの出店の手伝い	平成28年7月30日(土)		平成28年7月21日(木)	
27	工房やまの風	松阪市	タイヤ旅館周辺	鈴の音市での出店の手伝い	平成28年8月6日(土)		平成28年7月21日(木)	3名
28	向野園	松阪市	向野園	夏祭りでの出店の手伝い・利用者の介助	平成28年7月30日(土)	雨天時、7月31日(日)	平成28年7月21日(木)	
29	こいしろの里	松阪市	こいしろの里	夏祭りでの出店の手伝い・利用者の介助	平成28年8月27日(土)	雨天時、室内実施	平成28年7月21日(木)	
30	新道商店街の夜祭り	伊勢市	新道の店すてっわん	祭りでの販売・準備・片付け 障がいのある利用者との交流・触れ合い	平成28年7月23日(土) 16:00～20:00		平成28年7月14日(木)	
31	サマースクールボランティア	松阪市	松阪市社会福祉会館	さまざまなゲームのブースやお菓子づくりのサポート	平成28年8月5日(金)、8月10日(水)、8月25日(木)		平成28年7月21日(木)	23名
32	大井手町夏祭りボランティア	四日市市	四日市市大井手二丁目大井手公園	会場設営、屋台・ゲーム運営補助	平成28年7月30日(土)		平成28年7月21日(木)	
33	子どもキャンプ補助	津市	美杉のログハウス	子ども達と一緒に楽しくキャンプを行う	平成28年7月29日(金)・30日(土) 29日10:00～30日12:00		平成28年7月7日(木)	
34	小学生授業サポート	鈴鹿市	鈴鹿市立長太小学校	水泳の準備やサポート・裁縫(ミシンや手縫い)のサポート	平成28年6月～7月	水泳は雨天中止・裁縫は雨天実施	平成28年7月7日(木)	
35	ちょこっと福祉体験	伊勢市	皇學館大学	車いす体験・高齢者疑似体験・マフリングうちわつくりの補助	平成28年8月9日(火)	事前リハーサルあり	平成28年7月26日(火)	6名
36	はなのその夏祭り	度会郡	はなのその施設内	模擬店手伝い・介助	平成28年9月3日(土) 18:00～19:30	田丸駅までの送迎あり	平成28年7月28日(木)	1名
37	エンゼル・クラブ	鳥羽市	鳥羽小学校	指導員補助	平成28年7月21日(木)～8月31日(水) 8:00～18:30		平成28年7月14日(木)	1名
38	伊勢市男女共同参画宣言10周年記念イベント	伊勢市	伊勢市生涯学習センター「いせトピア」		平成28年7月31日(日) 8:30～16:00	軽食・飲み物あり	平成28年7月28日(木)	2名
39	聖母の家まつりボランティア	四日市市	聖母の家	模擬店のお手伝い	平成28年10月16日(日) 10:00～16:00	食事支給あり	平成28年9月27日(火)	
40	戸木町夏祭りボランティア	津市	久居交通本社	夏祭りのサポート・利用者介助	平成28年8月20日(土) 13:00～20:00		平成28年8月18日(木)	2名
41	平成28年度鳥羽市答志島奈佐の浜ごみ実態調査	鳥羽市	答志島奈佐の浜	浜に漂流したごみの回収と調査	平成28年9月3日(土) 7:00～13:10		平成28年8月9日(火)	

42	地域マップ作成チーム	松阪市	松阪市飯南町有間野地区	現地を調査し、観光客用マップの作成	平成28年8月下旬～12月頃		平成28年8月9日(火)	
43	FC伊勢志摩ボランティア	伊勢市	伊勢フットボールヴィレッジ	①前日・のぼりと横断幕の設置 ②当日・フライヤーの配布 立ち入り禁止区域の設置など	平成28年9月18日(日)19日(月)		平成28年9月15日(木)	5名
44	つつじの里・きずな第7回納涼祭	津市	つつじの里及び特別養護老人ホームきずな	模擬店の準備と補助、後片付け	平成28年8月28日(土) 11:30～16:00		平成28年8月9日(火)	
45	託児ボランティア	伊勢市	伊勢市中央児童センター	生後6ヶ月～未就園児の託児	平成28年9月16日(金)・28日(水) 10:00～11:30		平成28年9月13日(火)	
46	交通安全フェスタ	伊勢市	イオンタウン伊勢ラパーク	イベント補助	平成28年9月24日(土) 13:00～15:00		平成28年9月23日(金)	
47	さくら保育園運動会支援ボランティア	松阪市	さくら保育園	開場準備・進行手伝い	平成28年10月1日(土) 8:15～12:00		平成28年9月20日(火)	1名
48	トピア上映会子ども見守りボランティア	伊勢市	いせトピア	上映会での見守り	平成28年10月1日(土) 10:00～15:00		平成28年9月27日(火)	
49	宮の里・杜のまつりボランティア	度会郡	宮の里ミタスメモリアルホール駐車場	模擬店のお手伝い・利用者介助・後片付け	平成28年10月23日(日) 9:00～17:00	昼食あり・田丸駅までの送迎あり	平成28年9月20日(火)	
50	河崎商人市ボランティア	伊勢市	伊勢河崎商人館と河崎本通及び河崎川の駅周辺	スタンブラーの設置と運営・案内	平成28年10月23日(日) 8:30～16:00		平成28年9月20日(火)	6名
51	第13回車いすde伊勢神宮参拝ボランティア	伊勢市	伊勢神宮内宮	車いす利用者の方の参拝補助	平成28年11月3日(木・祝)	平成28年10月30日(日)事前レクチャーあり 11月3日雨天中止	平成28年10月20日(木)	
52	こいしらの里 秋のうまいもん祭り	松阪市	こいしらの里	会場内での食品販売	平成28年11月13日(日) 9:00～15:30		平成28年10月25日(火)	2名
53	お伊勢さん菓子博ボランティア	伊勢市	三重県立サンアリーナ及びその周辺	①運営や会場サービス ②救護保護・貸出・介助・巡回 ③会場の盛り上げ	平成29年4月21日(金)～5月14日(日)		平成28年11月24日(木)	
54	ひろがれ友情・ひろがれ仲間	津市	お城西公園・リージョンプラザ	各コーナーの担当・見守り	平成28年11月20日(日) 8:00～16:00	交通費1000円支給あり	平成28年11月17日(木)	
55	ひだまりフェスタ	鳥羽市	保健センターひだまり	誘導・運営・ゴミの分別処理・募金活動	平成28年11月16日(日) 9:00～15:00		平成28年10月11日(火)	
56	風子祭ボランティア	多気郡	社会福祉法人敬真福祉会 風の丘	祭りのサポート、利用者のサポート	平成28年11月6日(土) 9:00～15:30	JR多気駅から送迎あり 交通費1000円支給	平成28年10月27日(木)	
57	秋祭りボランティア	津市	津地域総合ケアセンター	模擬店の準備・配布・その他の補助	平成28年10月23日(日) 12:00～14:45		平成28年10月18日(火)	
58	夢祭ボランティア	愛知県春日井市	障がい者支援施設 夢の家	屋上の補助・その他のサポート	平成28年10月29日(土) 11:00～15:00	高蔵寺駅より送迎あり 昼食あり	平成28年10月25日(火)	
59	第19回三重県障がい者スポーツ大会・ボウリング	津市	津グランドボウル	ボウリングの進行の補助等	平成28年11月26日(土)	津駅西口より送迎あり	平成28年10月18日(火)	
60	にこにこ広場ボランティア	伊勢市	天理教三重互助園	模擬店・運営の準備・ゲームの準備	平成28年10月26日(日)	雨天時 天理教教務支庁で開催	平成28年10月13日(木)	
61	二見ハロウィンまつり	伊勢市	二見公民館	お菓子をもらいに行く子ども達のサポート	平成28年10月23日(日) 8:30～12:00		平成28年10月21日(金)	5名
62	第6回沼本まつり～かがやけ沼本！ひろがれ絆！	伊勢市	沼本小学校	着ぐるみによる子ども達との交流・けん玉や竹馬での交流	平成28年11月13日(日) 8:00～15:00	昼食あり	平成28年11月3日(木)	8名
63	第1回中島学区ふれあいフェスティバル	伊勢市	宮川堤公園	フェスティバル運営の補助など	平成28年11月20日(日) 9:00～15:00	雨天時11月27日(日)実施 昼食あり	平成28年11月10日(木)	
64	風子祭ボランティア	多気郡	社会福祉法人敬真福祉会 風の丘	運営・利用者の介助	平成28年11月5日(土) 9:00～15:30		平成28年10月27日(木)	
65	伊勢ボラフェスタスタッフ	伊勢市	伊勢市ハートプラザ御園	イベントスタッフ・スタンブラーのサポート	平成28年11月26日(土)	昼食あり 送迎あり	平成28年11月10日(木)	1名
66	老人ホームくらたやま	伊勢市	介護付老人ホームくらたやま	利用者の方との交流・カレンダー作りの手伝い	平成28年11月19日(土) 13:30～16:30		平成28年11月17日(木)	14名
67	手話サロンボランティア	松阪市	徳和地区市民センター	聴覚障がい者より手話を学ぶ・交流	平成28年12月10日(土) 13:00～16:00	JR松阪駅より送迎あり	平成28年12月8日(木)	
68	三重県警大学生ボランティア	津市	各所	支援活動等	平成29年4月～平成30年3月31日	面接あり	平成29年1月26日(木)	
69	きらきらくらぶ2017新春	多気郡	多気町社会福祉協議会 天啓の里	お正月の遊び・軽運動	平成29年1月6日(金) 10:00～15:00		平成29年1月5日(木)	
70	すてっわん歳末バザー	伊勢市	新道の店すてっわん	バザーでの販売・準備・片付け 利用者の方との交流	平成28年12月11日(日) 9:00～14:00		平成28年12月8日(木)	
71	こいしらの里・クリスマス会	松阪市	こいしらの里	クリスマス会の装飾など	平成28年12月17日(土) 13:00～20:00		平成28年12月8日(木)	
72	第44回アマチュア人形フェスティバル	伊勢市	尾崎琴堂記念館	着ぐるみを着用し、イベントを盛り上げる	平成29年2月26日(日) 9:00～17:00	昼食あり	平成29年2月23日(木)	
73	児童センターまつり	伊勢市	伊勢市中央児童センター	着ぐるみを着用しての子ども達との交流・運営の手伝い	平成29年1月22日(日) 9:30～14:00		平成29年1月19日(木)	
74	FC伊勢志摩クリスマスボランティア	伊勢市	三重交通Gスポーツの社	受付・案内、のぼり立て、横断幕、椅子並べ	平成28年12月25日(日) 11:00～19:00		平成28年12月21日(水)	
75	たきっこキッズ運動会	多気郡	多気町トレーニングセンター	各競技の準備や得点付け	平成28年12月26日(月)	動きやすい服装	平成28年12月20日(火)	
76	たきっこキッズボランティア	多気郡	たき児童館	子ども達とドッチボール・サッカー・工作などでの交流	平成28年12月26日(月)～平成29年1月6日(木) 8:00～17:30	動きやすい服装	平成28年12月20日(火)	
77	松阪市社会福祉フェスティバル	松阪市	ハートフルみくも	熊本復興支援くまもんハルーンアートを作る	平成29年2月12日(日) 10:00～16:00		平成1月26日(木)	10名
78	倉田山おそうじ企画	伊勢市	皇學館大学	皇學館大学・高校・中学のみなどでグループに分かれて、倉田山周遊をきれいにする	平成29年2月18日(土) 13:30～16:00	動きやすい服装、雨具準備、小雨決行	平成29年2月10日(金)	20名
79	託児ボランティア	伊勢市	伊勢市中央児童センター	母親向け講座「ママエステ」参加者のお子様の託児	平成29年2月21日(火)・28日(火) 10:30～11:30	参加の日にはどちらか1日だけでも参加可能	平成29年2月16日(木)	
80	伊勢市福祉健康センターフェスティバル	伊勢市	伊勢市福祉健康センター	受付や案内などのお手伝い着ぐるみを着て子ども達と交流	平成29年3月4日(土)・5日(日) 9:00～16:00		平成29年2月28日(火)	3名
81	はっぴいサークル	度会郡	玉城町社会福祉協議会	町内行事の説明・障がいについてのお話、障がいのある子ども達とお出掛け	平成29年3月30日(木) 9:30～15:30		平成29年3月14日(火)	1名
82	宇気郷・おひなさまボランティア	松阪市	宇気郷地区市民センター	①3月25日(土)に行われる前日準備 ②3月26日に行われるオープニングイベント ③開催期間中(3月26～4月2)のお食事処「うきさくら」	平成29年3月25日(土)～4月2日(日) 10:00～16:00頃	松阪駅から現地まで送迎あり、昼食支給あり	平成29年3月16日(木)	2名
83	三重ジョブキッズキャラバン	桑名市	桑名庁舎	イベントの補助・ブースの受付など	平成29年3月20日(月・祝)	交通費は自己負担	平成29年3月16日(木)	0名

平成 28 年度 ボランティアルームスタッフ一覧

No.	所 属	学 年	名 前
1	教育学部教育学科	4 年	内藤 悠
2			柘植 美早
3	現代日本社会学部現代日本社会学科		出口 真太郎
4			大和田野 澄香
5			高奥 命
6	文学部コミュニケーション学科	3 年	河口 比加理
7	文学部国文学科	2 年	山口 遼
8			上野 寛登
9	文学部国史学科		伊藤 駿介
10	文学部コミュニケーション学科		川口 真奈
11	文学部神道学科		田垣内 利晃
12	教育学部教育学科		横山 有弥
13			田畑 奈那子
14			山下 夕貴
15			千葉 星佳
16			林 佳那
17	文学部国文学科	1 年	小林 真亜莉
18			森 菜々子
19	文学部国史学科		松下 翠里
20	文学部コミュニケーション学科		水谷 祐哉
21	文学部神道学科		三苦 祐揮
22	教育学部教育学科		奥山 智司
23			岡崎 なみき
24	現代日本社会学部現代日本社会学科		杉木 真子
25			中根 くるみ
26			奥 梨沙
27			大田 芙侑
28			森谷 俊介
29			高田 玲志
30			片山 智貴